

新学習指導要領を踏まえた  
新しい授業づくりに関する研究

# 授業実践事例集

小学校編

授業実践事例集  
(小学校編)

平成二十二年二月

岡山県総合教育センター

2010年2月

岡山県総合教育センター

この「授業実践事例集」は、岡山県総合教育センターの所員研究として平成20年度と21年度の2年間にわたって取り組んだ「新学習指導要領を踏まえた新しい授業づくりに関する研究」の成果をまとめたものです。各教科及び道徳について各6ページの構成となっており、授業づくりのポイント、授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際（授業実践事例）、これからの方向性について解説しています。

この「授業実践事例集」は、当センターのWebページからダウンロードすることができます。貴校の授業づくりの一助として御活用いただければ幸いです。

**【授業実践事例集のURL】**

[http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h21/kyouka\\_jyugyou/index.htm](http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h21/kyouka_jyugyou/index.htm)

## 目 次

### 【小学校編】

国語	1
社会	7
算数	13
理科	19
生活	25
音楽	31
図画工作	37
家庭	43
体育	49
道徳	55
外国語活動	61



## 1 国語科授業づくりのポイント

小学校学習指導要領の国語科改訂の主な内容として、「学習過程の明確化」「言語活動の充実」「伝統的な言語文化に関する指導の充実」等が挙げられています。特に、「言語活動の充実」は、これからの国語科授業づくりに大きくかかわるものです。

そこで、「言語活動の充実」を目指した小学校国語科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 身に付けさせたい言語能力の明確化

今回の改訂では、自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、指導事項については、学習過程全体が分かるように構成されています。そのため、各学年の内容の指導に当たっては、その学習過程を意識した上で、(1)身に付けさせたい言語能力(指導事項)を明らかにし、(2)それにふさわしい学習活動(言語活動)を確定し、(3)教材・題材を決定する、という流れを大切にして授業づくりを行う必要があります(図1)。ここで取り上げる言語活動は、児童の実態に応じてより具体化し、各学年において指導する内容を系統化することが大切です。

#### 授業づくりの基本的な考え方

- (1)身に付けさせたい言語能力  
↓ <指導事項>
- (2)それにふさわしい学習活動  
↓ <言語活動>
- (3)教材・題材



図1 授業づくりの基本

### Point 2

#### 指導事項と言語活動の密接な関連

授業において言語活動を行わせることが、指導目標となることはありません。したがって、授業で取り上げる言語活動を通して、どの指導事項を指導するのかを明確にし、指導事項と言語活動を密接に関連させた授業づくりを行うことが重要です。例えば、「図鑑や事典などを読む」(「C読むこと」の第3学年及び第4学年)という言語活動を取り入れる場合でも、図鑑や事典を読ませることが目標ではなく、図鑑を利用して関心のある「昆虫の秘密」などについて調べさせ、必要に応じて引用や要約をする能力を育成することが目標となるような指導計画を作成することが大切です。

### Point 3

#### 言語活動の充実を目指した単元構想

言語活動を充実させるためには、指導過程全体を見直す必要があります。例えば、取り入れる言語活動を第三次に位置付け、そのために必要な言語能力を第二次で習得させる、というように、言語活動を指導過程に有機的に位置付けることが大切です(図2)。

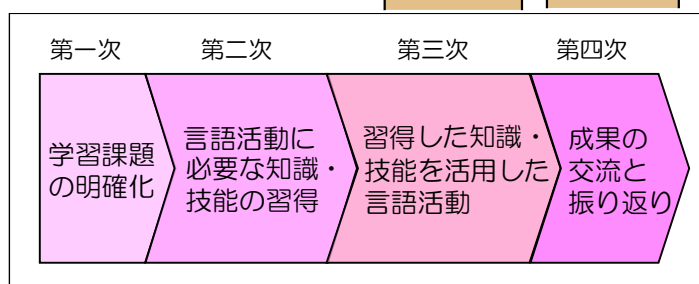


図2 言語活動を充実させるための指導過程

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

「C読むこと」 第4学年

## 人に分かりやすく説明する文章のひみつをさぐる

**Point 1** **Point 2** 身に付けさせたい言語能力とそれにふさわしい学習活動を明らかにする

指導事項 ◎イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と  
(言語能力) 意見との関係を考え、文章を読むこと。

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

言語活動例 ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。  
(学習活動)

【◎は、重点的に指導する事項】

## 1

### 実践のねらい

第3学年及び第4学年の「C読むこと」の目標として、目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせることが示されています。説明的な文章を教材とした授業では、「何のために読むのか」という読む目的を明確に示さないまま、段落ごとに要点を読み取ることが中心となる授業を構想してしまいがちです。

本単元では、単元の導入時に、学習課題を明確に示し、学習の見通しを持たせた上で教材文を読ませ、読んで理解したことを基に書く活動を行い、その成果を交流するという流れで単元を構想しました。読みの成果として文章を書き換え、それぞれが書き換えた文章を読み合い、感想を交流する活動を取り入れることが、読む能力を育成する上でどのような影響を及ぼすのかを探ることとしました。

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 目標

- (1) 中心となる語や文に着目し、構成や表現の仕方に対して自分の考えを持ちながら読もうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎(2) 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考えながら文章を読むことができる。  
(読む能力)
- (3) 文章を読んで考えたことを発表し合い、感じ方の違いに気付くことができる。  
(読む能力)
- (4) 指示語や接続語の役割を理解し、使うことができる。  
(言語についての知識・理解・技能)

#### 2 教材

- 『『かむ』こと力』(平成21年度版光村図書4年上)
- 『手のしごと』(昭和58年度版光村図書2年下)
- 『うんちとおしっこのひみつ』(平成14年度版学校図書2年下)



図3 児童の様子

次	目当てと主な学習活動	指導上の留意点
第一次 (2時間)	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">『かむ』ことの力」を読んで、 人に分かりやすく説明するためのひみつをさがろう。</p> <p>○「人に分かりやすく説明するためのひみつをさがる」という課題を知り、学習の計画を立てる。 ○『かむ』ことの力」を読んで、感想を述べ合い、それぞれの感じ方の違いを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何のために読むのか」という目的意識を明確にし、目的に応じた読む能力が育成できるようにする。</li> </ul>
第二次 (4時間)	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">人に分かりやすく説明するひみつを見付けよう。</p> <p>○『かむ』ことの力」を段落相互の関係をとらえながら読み、読み手に分かりやすく自分の考えを伝えるための筆者の工夫をとらえる。 ○筆者の工夫について気付いたことを話し合い、人に分かりやすく説明するための秘密をまとめる（図3）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じた読み方を意識させる。</li> </ul>
第三次 (2時間)	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">見つけたひみつを使って、文章を書き換えよう。</p> <p>○「手のしごと」と「うんちとおしっこのひみつ」を読んで、筆者の説明の仕方の特徴をつかむ。 ○『かむ』ことの力」を読んで見つけた秘密を使って「手のしごと」「うんちとおしっこのひみつ」のどちらかの文章を書き換える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動を通して、どのような能力を身に付けようとしているのかを児童が自覚できるようにする。</li> </ul>
第四次 (2時間)	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">書き換えた文章を読み合い、学習を振り返ろう。</p> <p>○書き換えた文章を読み合い、それぞれの表現の工夫について、感想を交流する。 ○互いの表現の工夫を基に、人に分かりやすく説明するためのポイントを自分の言葉でまとめ、学習の成果を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想をただ交流させるのではなく、今までに読んだ本や文章と比べたり、自分の持っている知識と結び付けたりしながら考えを深めさせる。</li> </ul>

まとめ	このような理由で、具体例を示しながら説明をしました。	● 例示の順番は、どのようにして決めたのですか。 【回答】 三段落は、 四段落は、 六段落は、 七段落は、 八段落は、	● どうして、具体例を五つも入れて説明したのですか。 【回答】 なぜかというと、	筆者（ ）さんに質問します。 インタビュアー（ ）	インタビューシート めあて
-----	----------------------------	---	--	------------------------------	------------------

図4 インタビューシートの例

#### 4 言語能力育成の過程（全10単位時間）

次	教師の支援	評価規準
第一次 (2時間)	<p>◇ゴールとなる表現活動を示し、何のために読むのかという目的意識を明確に持たせ、学習への意欲が高まるようにする。</p> <p>◇文章を読んで、「新たに発見したところ」に「！」マークを、「引き付けられたところ」に「ハート」マークを付けながら読ませ、考えを持ちやすくする。</p>	<p>◆学習課題をつかみ、構成や表現の仕方に対して、自分の考えを持ちながら読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)</p>
第二次 (4時間)	<p>◇本文の全文を印刷したワークシートを活用させることで、全体の構成や段落相互の関係をとらえやすくする。</p> <p>◇読者と筆者の二つの立場に分かれて対話をする活動を取り入れることで、筆者の工夫に気付きやすくする。 ※インタビューシート(図4)を活用し、読者役が筆者役に質問し、筆者役は筆者になりきって質問に答えるという場を設定する。</p>	<p>◆段落相互の関係を考えながら文章を読んでいる。 (読む能力)</p> <p>◆指示語や接続語の役割を理解している。 (言語についての知識・理解・技能)</p>
第三次 (2時間)	<p>◇第一次と同様に「！」マーク、「ハート」マークを付けながら新たな教材を読ませる。</p> <p>◇説明的な文章を比較しながら読ませ、それぞれの特徴に気付きやすくした上で、ヒントカード(図5)を活用して文章を書き換えさせる。</p>	<p>◆段落相互の関係を考えながら文章を読んでいる。 (読む能力)</p> <p>◆指示語や接続語の役割を理解し、使っている。 (言語についての知識・理解・技能)</p>
第四次 (2時間)	<p>◇低学年の友達によく分かるように文章を書き換えるという目的に照らして、相手にとって分かりやすい文章になっているかという観点を示し、それぞれの表現の工夫についての感想を交流させる。</p> <p>◇感想を交流するときには、今までに読んだ本や文章と比べたり、知識と結び付けたりして、自分の考えを深められるよう助言する。</p>	<p>◆構成や表現の仕方に対して、自分の考えを持ちながら読もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)</p> <p>◆読んで考えたことを発表し合い、感じ方の違いについて気付いたことを書いている。 (読む能力)</p>

<p>まとめ</p> <p>○このように、</p> <p>●手はすごいことが分かるまとめにしよう。</p>	<p>後半の例示</p> <p>○次に、</p>	<p>つなぎ</p> <p>○まず、</p> <p>●まだまだ読みたくなる文を書こう。</p>	<p>前半の例示</p> <p>○さらに、</p> <p>○また、</p> <p>○手には、「 ります。」</p> <p>「 というしごとがあ</p>	<p>はじめ</p> <p>●さそったり、問いかけたりしよう。</p>	<p>題「 」</p> <p>●工夫してひきつけよう。</p>	<p>ヒントカード</p>
---	--------------------------	---	---	-------------------------------------	-------------------------------------	---------------

図5 ヒントカードの例

## 5 授業の様子

第二次までに学習して理解した「人に分かりやすく説明する」方法を用いることにより、児童は、第三次で教材文「手のしごと」(図6)を図7のように書き換えることができました。この児童は、相手意識を明確に持ち、低学年の児童の興味・関心が高まるように、冒頭部や展開部の文末表現を工夫しています。また、展開部では、接続語を効果的に用いて手の仕事を整理し、分かりやすく伝える工夫をしています。

このことから、読みの成果として文章を書き換えるという活動を取り入れることは、読みを深めるだけでなく、段落の役割を理解し、段落相互の関係などに注意して文章を書くことへの理解を深めることにつながるということがうかがえます。

手のしごと まえだ かつや

わたしたちの手は、朝おきてから夜ねるまで、さまざまなしごとをしています。ゆつくり休んでいるときがなくて、手は、いつたいどんなしごとをしているのでしょうか。

顔をあらうときは、手で水をすくいます。ごはんを食べるときは、茶わんやはしをもちます。このすくう、もつというのは、手のしごとです。

自てん車にのるときは、ハンドルをにぎります。てつぼうであそぶときにも、てつぼうをしつかりにぎります。手は、にぎるといふしごとをしています。

(中略)

このほかにも、手にはとてもたいせつなしごとがあります。

友だちをよぶとき、「早くおいで。」といいながら手をふるでしょう。(中略)

このように、手をいろいろにうごかして、気もちをあいてにつたえるのも、手のたいせつなしごとなのです。

図6 「手のしごと」の原文

手のしごと

あなたは、手のしごとを知っていますか。手は、朝からねるまで、いろいろな仕事をしています。どんな仕事をしているのかいっしょに考えてみましょう。

手には「すくう」「もつ」という仕事があります。朝、顔をあらうときは、手で水をすくってあらいます。ごはんを食べるときは、茶わんやはしをもつて食べます。

また、「おさえる」という仕事があります。えんぴつをもつて字を書くとき、ノートや紙が動かないようにおさえます。(中略)

手は、ほかにもいろいろな仕事をしています。どんな仕事をしているか。

まず、「にぎる」という仕事があります。

(中略)

次に、「はらう」という仕事があります。

(中略)

このように、手はいろいろなところで、大事なやわわりをはたしているのです。手は、すこいですね。

図7 児童が書き換えた文章

### 3

## 成果と課題

説明的な文章を読んで、人に分かりやすく伝えるための秘密を探り、その秘密を使って文章を書き換え、感想を交流するという実践を試みました。その結果、児童の感想の中には、筆者の表現の工夫への理解を一層深めたことを表す記述が多く見られました(図8)。

このことから、言語活動を充実させることは、言語能力を身に付けさせる上で、一定の成果を上げることができました。

今後は、言語活動の充実を目指して、文学的な文章を教材とした「読むこと」の指導過程及び他領域の指導過程を見直していきたいと思えます。

・人に分かりやすく説明するときの言葉として、「また」「まず」「次に」という言葉を使うと分かりやすくなることだが、一番参考になりました。

・今までは、文章をただ長く続けて書いていたけど、ちよつとずつ段落に分けて書いたり、具体例を示すときには順番に気を付けて書くことが大切だということが分かりました。これから文章を書くときには、それらのことを考えて書きたいと思いました。

・この学習を通して、読む人のことを考えて、かぎかっこを使ったり、問いかけをしたりして、読者を引き付けるような書き方を工夫して書くことが大切だということが分かりました。

図8 単元終了時の児童の感想

### 実践者からのコメント

指導に当たっては、まず、構成や表現の仕方など教材の特性を見極め、読みを深めるための明確な観点を持ち、教材研究を行う必要があります。使用する教材については、習得した知識・技能を無理なく活用することができるようにするために、下学年の教科書教材などから教材を開発するのも効果的です。

# 8 これからの方向性

今回紹介したものは、「C読むこと」の領域における実践事例です。ここで示した単元構想を参考にして、各領域の具体的な指導計画を作成し、「言語活動の充実」を目指した国語科授業づくりを推進していくことが大切です。そこで、年間指導計画と単元の指導計画を取り上げて、これらを作成する上でのポイントを次に示します。

## 指導計画 活用しやすい年間指導計画の作成

年間指導計画の形式としては、様々なものが考えられます。図9に示したものは、横軸に単元名（教材・題材）を、縦軸に指導事項及び言語活動例を設定した形式例です。この形式を用いることにより、取り上げる言語活動例と指導事項を一覧することが可能となり、系統的な見通しが持ちやすくなるだけでなく、指導内容の偏り等の確認もしやすくなります。表への記入については、取り上げる指導事項と言語活動例に丸印を付けていくだけなので、児童の実態に応じて年度途中に変更することもでき、より活用しやすいものとなります。

## 単元開発 授業改善につながる単元の指導計画の作成

育成する言語能力の見通しが持てた次の段階では、各単元において、どのような言語能力を育成するのかを具体化した指導計画を作成することが大切です。図10に示したものは、横軸に単元名、指導事項、主な言語活動、前後の系統性を設定した形式例です。この形式を用いることにより、単元ごとに各領域の学習過程に沿った指導内容を具体的に計画することが可能となり、前後の系統性を意識しやすくなります。このようにして言語活動を指導過程に有機的に位置付けた指導計画を作成することは、授業改善にもつながることができます。

月	NO.					
	1	2	3	4	5	
(教科目標) 国語を適切に表現し正確に理解する能力を高め、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。						
単元名 (教材・題材) あいさつをしましょう						
指導時数 6						
A 話す「 聞く」 関心	話題設定 や取材 ア	身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。				
	話すこと イ	相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。				
	ウ	姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。				
B 読む「 書く」 関心	聞くこと エ	大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。				
	話し合うこと オ	互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。				
	ア	事物の説明や経験の報告をしたり、それらについて感想を述べたりすること。				
C 読む「 書く」 関心	言語活動例 イ	尋ねたり応答したり、グループで話し合ったり考えを一つにまとめること。				
	ウ	場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。				
	エ	知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。				

図9 年間指導計画の記入例

月	指導時数	単元名	指導事項(◎:重点的に指導する事項)					主な言語活動	前後の系統性
			課題設定や取材	構成	記述	推敲	交流		
1月	10	「ゆめ物語」を書く。	登場人物を決め、人物関係図をつくる。「読むこと」のゆめを参考に読む。	人物関係図を基に物語のあらすじを考え、構成メモを作成する。	構成メモを基に、物語の下書きを書く。	◎小グループで物語を読み合い、アドバイスを基に下書きを修正する。	完成した作品を交流し、物語の構成や展開について意見を述べ合う。	物語を読み、想像をふくらませたことを基に物語の創作をする。	【3年】 ・物語文「C読むこと」

月	指導時数	単元名	指導事項(◎:重点的に指導する事項)				主な言語活動	前後の系統性
			話題設定や取材	話すこと	聞くこと	話し合うこと		
11月	8	わが町歴史発見	◎わが町の歴史について調べたいテーマを決め、地域の方々インタビューをする。	分かりやすく伝えるためのメモや資料を作り、それらを基に共通語と方言を使い分けて話す。	発見した歴史に対する話し手の考えを自分の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる。	地域のお年寄りを招いて座談会を開き、「わが町の歴史」について考えを交流する。	資料を提示しながら調べたことを報告し、合い、取材の仕方などについて助言をする。	【4年】 ・説明文報告書「C読むこと」

図10 単元指導計画の記入例

### ○参考文献

- ・ 文部科学省 (2008) 「初等教育資料」 5月号, 東洋館出版社
- ・ 文部科学省 (2008) 「中等教育資料」 6月号, ぎょうせい





## 1

### 社会科授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説社会編（平成20年9月）では、学習指導要領の改訂の趣旨として「地域社会や我が国の国土，歴史などに対する理解と愛情」を深めることや「社会的な見方や考え方」を養うこと，そして「身に付けた知識，概念や技能などを活用し，よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う」ことが示されています。これらの改訂の趣旨を受けたとき，多くの実践上の課題が考えられます。

そこで，小学校社会科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

#### Point 1

#### 「解釈」「説明」する学習の充実

社会科では，多面的，多角的な考察をしつつ，社会的事象の意味，意義を解釈したり，事象間の関連を説明したりする学習が重視されるようになります。そのような学習では，社会的な見方や考え方が大切になります。問題解決的な学習活動を一層充実させ，社会的事象を比較，関連付け，総合したり，類推や分類したりするなどの考察をさせることで，児童は社会的な見方や考え方を身に付け，社会的事象の意味，意義を解釈したり，事象間の関連を説明したりすることができるようになります。

#### Point 2

#### 書く活動を大切にした指導

授業では，教師がノートや板書等を使って分かったことを図にしたり構造化したりした上で，児童自身に内容をまとめさせることが大切です。それにより，児童は社会的事象の意味や意義，特色や事象間の関連を考えることができるようになります。

中学年に多い見学や体験を通じた学習の場合には，児童が訪問先の人の細かな動きや工夫に気付き，その場でしっかりとメモできるようにしておく，目的を持ってインタビューしたり，学校に帰って理由を調べたりすることができます。これらは，様々な資料や見学の際の気付きやインタビュー等から分かったことを集めてレポートやノートにまとめる際に重要な情報になりますが，聞き取ったことや資料からの引き写しにとどまってしまうことが課題になっています。分かったことを一度整理し，それらを関連付けてまとめるなどの活動を取り入れる必要があります。

#### Point 3

#### 習得すべき基礎的，基本的な知識や概念の明確化とその活用

講義形式の授業だけでは，活用できる知識や概念を習得させることは困難です。まず，本時までに身に付けさせておく知識や概念と本時で身に付けさせる知識や概念を明確にします。その上で基礎的，基本的な知識を構造化したり，概念を身近な例に当てはめたりする学習を通して理解を深めさせると，次の学習においてそれらの活用を図ることができるようになります。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名 「信長・秀吉・家康と天下統一」

Point 1 を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

第6学年の歴史学習において既習の知識が十分定着できていないまま、資料の読み取りや考察をすることは、児童にとってかなり難しいという実態があります。そこで、前時の学習で身に付けた知識などの既習の知識を生かして、社会的事象の意味を解釈する問題解決的な学習を行う授業展開例を示します。具体的には、授業の導入部で学習に必要な既習の知識を全員の児童が身に付けているかどうかを確かめる復習をした上で、学習課題を設定します。授業の展開部では、既習の知識を生かして、資料の読み取りをしたり、資料を基に考えたりする活動を設定します。そして授業のまとめでは、本時に学習した内容を振り返る活動を設定します。

また、今までに学習した内容を生かして資料から読み取ったことを考察させるために、「信長が安土に城を築いたのはなぜか」という事象の意味の解釈を促す発問をして、資料を読み取る際に過去の学習内容から類推する学習活動を設定しています（表1）。Point 1

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 歴史的事象の意味を解釈する授業

本単元の学習の前に、児童は単元「武士による政治のはじまり」において源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を考えており、「朝廷と距離があったこと」「鎌倉地方に強い勢力を持っていたこと」「防衛や交通の利点から頼朝が鎌倉に幕府を置いていたこと」などを学習しています。

また、第一次第1時には、織田信長が活躍したころは、戦国大名が群雄割拠し領土を拡大しようと戦いが続いていることや外国から伝来した鉄砲を信長がいち早く取り入れたこと、併せて信長・秀吉・家康の3人のうち、まず信長が室町幕府を滅ぼし、天下統一を目指していたことなどを学習しています。

第2時の本時では、前時の復習の後、単元「武士による政治のはじまり」において学習した鎌倉に幕府が置かれた理由を基に、地図資料から政治の中心地と朝廷との距離、防備や交通という観点から、信長が安土に城を築いた意味を類推させます。そこで室町幕府の中心地である京都が近くにあること、琵琶湖の水運が利用できることなどに気付かせることができます。また、勢力地の尾張と安土との地理的位置関係を地図を基に比較することで、京都や堺に近いことや陸上の街道においても交通の要所であることなどにも気付かせることができます。さらに、絵画資料からは、西洋人の姿や教会の建物を見付け、キリスト教や鉄砲などの西洋文化と関連付けることで、信長の安土の町づくりのねらいを類推させていくことができます。

これらの学習を通して、安土は室町幕府の中心地である京都が近くにあること、街道や琵琶

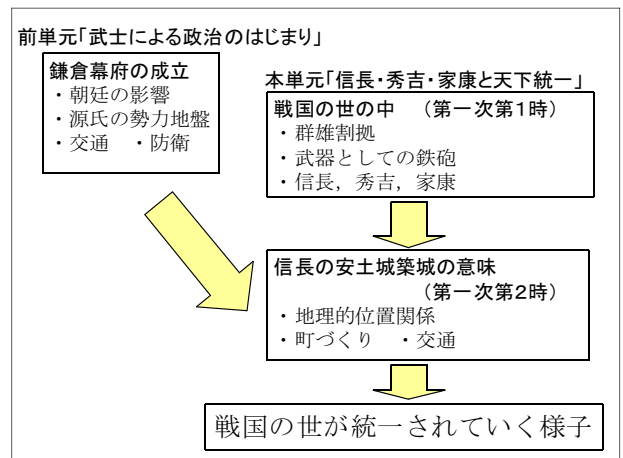


図1 本時の授業構想

琵琶湖の水運の要所であることなどから、商業に力を入れ戦略的にも優位に立とうとしたことなどに気付き、また、いち早く町の中に西洋文化を取り入れ新しい町づくりをしていたことから政治の中心地としての安土を目指していたことなどが考察できると考えました(図1)。

表1 歴史的事象の意味の解釈を促す単元指導計画

〈前単元「武士による政治のはじまり」〉

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	2	(本時と関連した学習の内容) ・鎌倉に幕府を開いた理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉と京都の位置について、地図を利用して距離や徒歩でどれくらいの時間がかかるかなどの距離感を実感させるようにする。</li> <li>・源氏の起りや鎌倉の地形などからも考えるようにする。</li> </ul>
<p><b>歴史的事象の意味の解釈を促すための留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政治の中心地を定めるには、位置、勢力範囲、地形、交通面など、それぞれにねらいがあることに気付かせる。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>Point 1</b></p>			

〈本単元「信長・秀吉・家康と天下統一」〉

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	学習課題を考える。 ・「長篠の戦い」の絵図を手がかりに、武士の対立から天下を統一した信長・秀吉・家康について知る。 ・鉄砲を使った新しい戦いで勝利した信長について考える。 ・3人の天下統一への道について調べる学習課題を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町時代中期に力を付けてきた大名や大名同士の争いが続いた戦国時代について確認しておく。</li> <li>・「長篠の戦い」の絵図を拡大提示することで、両軍の戦い方の違いや信長・秀吉・家康の陣容の様子をとらえさせる。</li> <li>・絵図から3人の当時の力関係を考えたり年表から3人の業績を読み取ったりすることにより、天下統一にかかわる人物への興味・関心を高めるようにする。</li> </ul>
<p><b>歴史的事象の意味の解釈を促すための留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の終わりに、鉄砲生産地の一つの堺を信長が支配したことや、信長・秀吉・家康が関係し合いながら天下統一を成し遂げていったことなどを、キーワードで確認させる。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>Point 1</b></p>			
	2 (本時)	織田信長の天下統一について調べる。 ・前時の学習の復習をする。 ・信長と信長の天下統一について調べる。 ・信長の考えや政策について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードで確認した後、数名の児童にキーワードの内容を説明させる。</li> <li>・信長の勢力の広がりを示す地図資料と地図帳の基本図との比較を通して、安土の地理的位置関係に気付かせる。その際、鎌倉幕府の置かれた場所についても想起させる。</li> <li>・地図資料から、信長が幾つもの大名を滅ぼしながら、勢力を広げていったことを押さえさせる。</li> <li>・キリスト教が広まったことと信長の政策を結び付けて確かめさせる。</li> </ul>
<p>発問：信長が安土に城を築いたのはなぜか。</p>			
<p><b>歴史的事象の意味の解釈を促すための留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉幕府の成立や前時で学習したことを生かすようにする。</li> <li>・地図資料、絵画資料、文章資料を互に関連付けたり比較したりすることで、信長が安土に政治の中心地を置いた意味を考察しやすくする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>Point 1</b></p>			
二	1	豊臣秀吉の天下統一への業績を調べる。 ・秀吉が行った政治について調べる。 検地、刀狩、身分令	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で学習した信長の業績と比べることで、武士による新しい支配体制を固めようとしたことに気付かせる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・検地と刀狩のねらいについて考える。 一揆<sup>き</sup>の防止と身分の固定化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検地や刀狩のねらいについて考え、秀吉が農民支配を強化しようとしていることに気付かせる。</li> </ul>
<p><b>歴史的事象の意味の解釈を促すための留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秀吉は信長の支配に対し一向宗などが抵抗したことを踏まえて、戦国大名への支配とともに、武士による民衆への支配を確立していったことを、信長の業績と重ね合わせて考察させる。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>Point 1</b></p>	
<p>2 秀吉の朝鮮出兵と家康の江戸幕府開府について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮出兵について調べる。</li> <li>・朝鮮出兵の影響について考える。</li> <li>・江戸幕府を開いた家康について調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秀吉の朝鮮出兵の影響について考えることで、豊臣氏の力が弱まり、家康に天下が移っていくことをつかませる。</li> <li>・徳川家康について、「鳴かぬなら…」の句から、信長、秀吉と比べてとらえさせるようにする。</li> </ul>

## 2 授業展開例（第一次第2時）

### (1) 本時の目標

- ・織田信長の人物調べを通して、信長が多く的大名や農民を抑えて天下を統一していく様子を理解することができる。  
(社会的事象についての知識・理解)
- ・地図や絵図、文書資料などから読み取ったことを基に、信長の天下統一が、ヨーロッパから伝わったものや城づくりを利用して進められたことについて考えることができる。  
(社会的な思考・判断)

### (2) 本時の主な学習活動

学習活動	指導上の留意点	評価
<p>1 前時の復習をして、本時の学習に必要な知識を確かめる。</p>	<p>○フラッシュ型教材を活用して、天下が統一されていく時代の様子や鉄砲の伝来について思い出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・織田信長 ・徳川家康 ・豊臣秀吉 ・天下統一</li> <li>・鉄砲 ・堺 ・長篠の戦い ・戦国の世</li> </ul>	
<p>織田信長は、どんな人物で、天下統一を目指してどのようなことをしたのだろう。</p>		
<p>2 信長と信長の天下統一について調べる。</p> <p>(1) 信長の人柄について調べる。</p> <p>(2) 信長の天下統一について調べる。</p>	<p>○前時に予想した信長のイメージを確かめた後、資料「ポルトガル人が見た信長」を読み、信長の人柄を数名の児童に発表させる。</p> <p>○自分の教科書本文に、信長がしたことについて下線を引いて、読み取ったことを明確にさせることで、室町幕府を滅ぼすまでの信長の業績を整理させる。</p> <p>○地図資料「信長の勢力の広がり」から、周りの大名を倒して勢力を広げたこと、鉄砲の生産地である堺を手に入れたことなどを読み取らせ、本文と結び付けて天下統一事業を進めた様子をとらえさせる。</p> <p>○室町幕府を滅ぼした後に信長がしたことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一向宗信者の農民と対決 ・安土城を築城</li> <li>・家来を城下町に住ませる ・商工業の自由</li> </ul>	<p>○信長が多く的大名や農民を抑えて天下を統一していく様子を理解している。 (ノート)</p>
<p>3 信長の考えや政策について考える。</p>	<p>○地図資料「信長の勢力の広がり」から、大名だけでなく農民と対決していること、安土を根拠地としていることを確かめさせる。</p> <p>○絵図「安土のようす」から城下町が栄えている様子が分かる場所に印を付けさせ、キリスト教の教会や南蛮人の絵からヨーロッパから伝わったものを取り入れていることにも気付かせる。</p> <p>○文書資料「キリスト教の伝来と信長」を音読させ、信長は一向宗信者の勢いを抑えるためにキリスト教を保護し、ヨーロッパ文化を取り入れたことを確かめさせる。</p> <p>○地図資料「信長の勢力の広がり」を基に、信長が安土に城を築いた理由について考えさせる。その際、尾張と安土の地理的位置を地図で比較して、京都や堺に近いことや交通の要所であることなどに気付かせる。また、鎌倉幕府の中心地と比較してその相違点や共通点を見付けさせる。</p> <p style="text-align: right;"><b>Point 1</b></p>	<p>○読み取ったことを基に、信長の天下統一が、ヨーロッパから伝わ</p>

4 本時のまとめをする。	○キーワードを活用して、織田信長が天下を統一していく様子について振り返ることができるようにする。 ・織田信長 ・天下統一 ・室町幕府を滅ぼす ・安土城 ・キリスト教を保護	たものを利用して進められたことについて考えることができる。 (ノート・発表)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>戦いを好み、大名から恐れられていた織田信長は、鉄砲やキリスト教などヨーロッパから伝わったものをうまく利用して抵抗する大名や一部農民を倒して天下統一を目指した。</p> </div>		
○本能寺で明智光秀に攻められ自害した信長の後、天下統一事業を受け継いだ秀吉に触れ、次時への意識付けを図る。		



## 成果と課題

### 1 本時の授業の様子

導入時において、前時のキーワードを振り返らせた後、長篠の戦いについて問うと、児童は「鉄砲隊が大きな働きをして織田軍が勝ちました」と答え、前時に確認したことを想起している様子が見られました。

今までに学習した内容を生かして、歴史的事象の意味の解釈を促すために「信長が安土に城を築いたのはなぜか」と発問すると、児童は、教科書の信長の勢力の広がりを示す地図資料を基に地図帳と比較しながら、信長がそれまで根拠地としていた尾張と安土の位置が比較的近いという地理的位置関係に気付くことができました。さらに、「前に学習した鎌倉幕府を当てはめて考えてみるとどんな共通点や相違点があるか」と問いかけると、児童は教科書にある当時の鎌倉の絵図を広げ、次のようなことを挙げて考え始めました。

- ・「鎌倉幕府の場合は海や山に囲まれた守る点でよかったよ。安土はどうか」
- ・「幾つか鎌倉に入ってくる道があって海も利用できたよ。安土は琵琶湖がすぐ近くにあるから何か関係があるのではないかな」
- ・「鎌倉は朝廷の力を受けないように朝廷のある京都から離れていたけど、安土は京都に近いよ」

信長が安土城を築城した意味を、「安土は琵琶湖に面して交通の要所になっていた」「信長が京都の周りをすべて抑え、朝廷を見張ることができる」「中国地方へ更に勢力を伸ばそうとした」と児童なりに発表したことから、鎌倉幕府の朝廷との距離、防備や交通という観点に基づいて考察したことがうかがえました。

また、絵画資料を基に、より深まった考えを持つ様子も見られ、授業のまとめでは「戦いのうまい信長はキリスト教を保護し、鉄砲を手に入れやすくして天下統一を目指した」などと、児童は自分の考えをノートにまとめていました。

### 2 実践を終えて

以前に学習した内容を想起しそれを基に考察できていたことから、知識の定着を図る工夫、本時のねらいに沿った事象の意味の解釈を促す問いの設定や活用する知識の洗い出しの重要性が分かりました。しかし、学習指導要領に示された内容や教科書にある地図や図版等をしっかりと考慮しながら指導計画の作成を行ったので、授業づくりに相当な時間が必要でした。効率的な教材研究や授業計画の作成のための時間の確保が最大の課題だと感じました。

### 実践者からのコメント

「歴史的事象の意味の解釈を促すための留意点」を単元計画に書き込んでいく中で、歴史学習においても事象と事象との関連を大切にしながら指導することの必要性がよく分かりました。また、今回、学年団や市内の社会科部会の先生方と一緒に授業づくりを進めていきました。先生方と互いに学び合い、多くのことを教えていただき、有意義な教材研究をすることができました。授業計画の作成のための時間の確保という課題については、校内でグループを組んで指導計画を作るようにしていくと、無理なく事象の意味の解釈を促す指導計画を作成することができると考えました。

## 8

### これからの方向性

学年ごとに、新しく入った学習内容の内容構成やその指導方法など実際に授業する上での課題があります。充実した社会科指導になるように、校内で事前事後に十分検討し、指導計画を練り直していく必要があります。また、近隣の学校同士や自主的な研究グループなどでも実践を持ち寄り、検討を加えながら新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた指導計画を作ることも考えられます。そこで、新しい指導計画を作成する上でのポイントを次に示します。

#### 単元開発

#### 新しく入った内容に関する単元の開発

主に、第3・4学年「県内の特色ある地域の人々の生活（自然環境、伝統や文化などの地域資源を保護・活用している地域）」、第5学年「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」「情報化した社会の様子」など新しく入った内容に関する単元では、どのような社会的事象を取り上げていくべきかを学校や中学校区単位ぐらいで協議しつつ、単元を開発して授業展開をシミュレーションしてみることが大切です。また、「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」は、中学校での現行の指導方法を調べてみるなどの準備が必要になってくるでしょう。

#### 教材・教具

#### 地球儀や地図などの教材・教具の活用

新しく入った内容に伴い、地球儀や地図帳の活用の充実がポイントとなります。指導法の開発と同時に、かけ地図や地球儀は最新版にしておく必要があります。また、児童が学校生活の中で触れたり、調べたい地域を確認したりするような学習環境の整備が望まれます。



地図帳は、社会科の学習だけの活用にとどまらず、他の教科や領域においても活用が考えられます。例えば、国語科の教材文中の地名や学校行事で出かける地域の様子などを調べてみるなど、地図帳を活用した学習活動を取り入れることができるのではないのでしょうか。

第4学年「県内の特色ある地域の人々の生活（自然環境、伝統や文化などの地域資源を保護・活用している地域）」では、児童が直接見たり、聞いたりした経験のない地域を扱うことになることが予想され、様々なメディアを活用して興味・関心を持たせるような指導が必要になります。

#### 他学年との関連

#### 各学年及び中学校での学習内容との関連を踏まえた指導

従来にも増して、各学年や中学校との学習の関連を図る必要が出てきました。例えば、小学校第4学年で学習する都道府県や第5学年での主な国々、大陸や海洋の名称と位置は、我が国の国土や世界の地理的認識の核になり、第5学年の産業学習や第6学年の歴史や世界の中の日本の役割の学習との関連が深いものです。さらに、中学校の地理的分野での主な国々、大陸や海洋の名称と位置の扱いは、小学校の学習が前提で進んでいくようになっています。各学習段階での確実な習得を目指すとともに、次の学習内容との関連が図れるよう他学年の学習内容を十分に理解して指導することが求められます。



## 1 算数科授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説算数編（平成20年8月）（以下「学習指導要領解説」という。）では、改訂の基本方針として「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」「数学的な思考力・表現力の育成」「学ぶ意欲の向上」の三つを挙げています。また、これらのことを図るため、算数的活動をより一層充実させることを求めています。

そこで、「数学的な思考力・表現力の育成」を目指した小学校算数科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 「伝達型」から「創造型」へ授業スタイルの転換

考える楽しさを実感させる授業づくりを進めることが大切です。そのためには、授業スタイルを「伝達型」から「創造型」に転換させる必要があります。「創造型」の授業とは、問題解決の授業がベースになります。まず、児童が「問い」を持つことから始まります。次に、その「問い」を基に学習の目当て（課題）を設定します。そして、解決の見通し、解決の実行、比較検討を図る中で、児童自らが新たな発見をすることが求められます。さらに、発展的に考えて新たな課題を見付ける活動があるとよいでしょう。このような授業を展開するためには、児童の知的好奇心を高める問題提示の工夫や、児童自ら新たな発見や気づきを生むことができるよう発問や支援の工夫を考える必要があります。また、単元指導計画に日常生活や他教科等の学習へ活用する活動を設定することも重要です。

### Point 2

#### 目的を明確にした算数的活動の設定

学習指導要領解説のp. 10, 11には、29の算数的活動の事例が示されています。作業的、体験的な活動は、数量や図形について実感的に理解させるために欠かせない活動です。例示された算数的活動には、目的と内容が明確に示されています。これらを参考にして、児童が活動の目的を見失うことがないように、目的を明確にした算数的活動を工夫することが大切です。また、例示されなかった単元の算数的活動についても、示された算数的活動の中から系統性や類似性がある単元の活動を参考にして各校で工夫し、新たに設定することが求められます。

### Point 3

#### 多様な表現方法を用いて説明する活動の設定

算数科における表現方法として、具体物、言葉、数、式、図、表、グラフなどがあります。これらの表現方法を用いて、自他の考えを論理的に分かりやすく表現することが求められています。例えば、他者がかいた図を読み取って言葉や式を用いて説明する活動などを設定して、様々な表現方法を相互に関連付けることが考えられます。特に、図や表による表現には演算決定や説明、答えの確かめなどの役割があり、問題解決に有効に働きます。低学年からこうした図などを活用する活動を積極的に授業に取り入れて、慣れ親しませることが、自分の考えを説明したり表現したりする学習活動を充実させることにつながります。

## 2 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名「変わり方のきまり」（第5学年）

### 1 実践のねらい

ここでは、「D数量関係」領域の実践事例を紹介します。今回の改訂では、すべての学年に「D数量関係」領域の学習内容が設けられました。これは、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いた思考力、判断力、表現力等を重視することをねらいとしています。

この領域には、「関数の考え」「式の表現と読み」「資料の整理と読み」の内容があり、本実践は、この中の「関数の考え」の内容です。「関数の考え」とは、数量や図形について取り扱う際に、それらの変化や対応の規則性に着目して問題を解決していく考えです。

本実践では、伴って変わる二つの数量の関係を考察し、言葉、数、表の三つの表現方法を中心として、それらを相互に関連付けながら、変化の規則性について論理的に考え、説明することに重点を置いた学習指導を考えました。

Point 3

また、単元指導計画の作成に当たっては、学習指導要領解説に本単元の算数的活動が示されていないので、第4・6学年で示された算数的活動を参考にして日常生活の中から伴って変わる二つの量を見付ける学習活動を単元末に設定しました。そうすることで、関数の考えをより定着させたり活用させたりすることができると思われました。

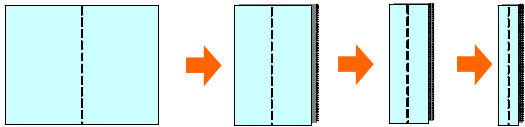
Point 2

### 2 学習指導の実際

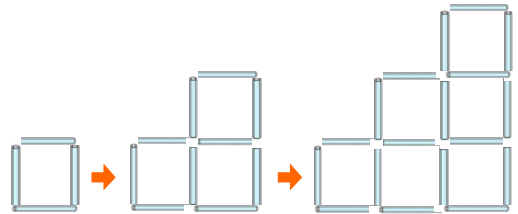
#### 1 本単元のねらい

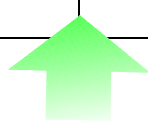
本単元は、伴って変わる二つの数量を表にまとめ、表から数量間にある規則性を帰納的に考えて見付けることと、その規則性を基に問題を解くことをねらいとしています。

#### 2 単元指導計画

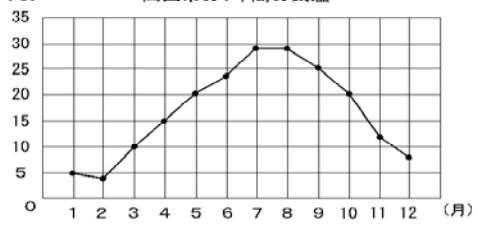
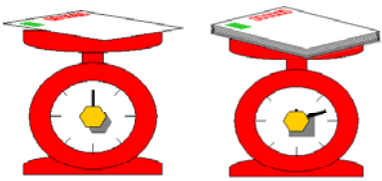
時	主な学習内容	指導上の留意点
1	<p>長方形の紙を半分ずつに折っていく作業について、少ない場合から順に折った回数と長方形の数、折り目の数の関係を整理して考える。（本時）</p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>・単元の特性や指導の系統性の観点から重点的に活用する表現方法を言葉、数、表の三つに絞る。</li><li>・具体物の操作から徐々に言葉や数による表現につなげていくようにする。</li></ul>



	<p><b>Point 3</b> 自他の考えを論理的に分かりやすく表現させるための手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明をノートに書かせる場合は、表に記号や数を書かせたり、簡条書きで短い文章でまとめさせたりするなど、視覚的にとらえることができるようにする。</li> <li>話型を活用する。(例「まず」「次に」「最後に」、結論を先に述べるなど)</li> </ul>	
2	<p>ひごを階段状に並べていく作業について、少ない場合から順に、ひごの数と段の数の関係を表に整理して考える。</p>	
3	<p>身の回りから伴って変わる二つの量を見付け、表やグラフに表して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表を中心に取り扱い、表から数量の変化や対応の決まりを見付けることができるようにする。</li> <li>比例の関係を見付けた場合は、「○○が2倍、3倍、4倍、…になれば、□□も2倍、3倍、4倍、…になる。」と言葉でまとめる。</li> </ul> <p><b>Point 2</b> 学習指導要領解説には、第5学年の「関数の考え」に関する算数的活動の例が示されていない。そこで、第4・6学年の算数的活動を参考にして、日常生活の中から伴って変わる二つの量を見付ける学習活動を設定する。</p>	

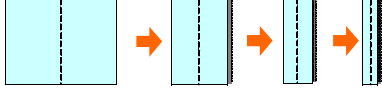




学習指導要領解説に例示された算数的活動の内容

第4学年	第6学年
<p>身の回りから、伴って変わる二つの数量を見付け、数量の関係を表やグラフを用いて調べる活動</p> <p>(°C) 岡山市の1年間の気温</p> 	<p>身の回りから、比例の関係にある二つの数量を見付けたり、比例の関係をを用いて問題を解決したりする活動</p>  <p>例 はがきの枚数と重さの関係</p>

3 本時案 (第1時)

目標	伴って変わる二つの量について、表に表して変わり方の決まりを見付け、これを利用して問題を解くことができる。
----	--

過程	学習活動	・指導上の留意点等      *評価規準	表現方法の関連付け <span style="background-color: #f08080; padding: 2px;">Point 3</span>																												
つ か む	1 問題を理解する。  ・実際に紙を3回折る。  2 目当てを持つ。	<p>&lt;教科書の問題文&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             長方形の紙を2つに折り、それをまた2つに折りさらに2つに折っていきます。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伴って変わる数量を考えさせることで、依存関係に着目させる。  </li> <li>・実際に紙を折ることで折って調べることの難しさに気付かせ、どのような方法で解決できそうかを考えさせる。</li> </ul>	具体物⇔言葉																												
表を使って、折り目で分けられた長方形の数を調べよう。																															
追 求 す る	3 紙を6回折ったときの長方形の数を予想する。  4 表にまとめ、変化の決まりを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に折った紙を見ながら3回まで折ったときの長方形の数を記入させ、6回を推測させる。</li> <li>・答えが分かった児童には、どのようにして答えを導いたかを尋ね、変化の決まりをノートに記述するように指示する。</li> <li>・考えが浮かばない児童に対しては、長方形の数の変化のみに着目させ、隣り合う数値の差や比を尋ねて変化の決まりに気付かせる。</li> </ul> <table border="1" style="margin: 10px auto; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td></td> <td>+1</td> <td>+1</td> <td>+1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>折った回数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>長方形の数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>16</td> <td>32</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>×2</td> <td>×2</td> <td>×2</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>*表から長方形の数が2倍ずつ増えていることに気づき、6回折ったときに長方形の数が64個になることを求めることができる。</p>			+1	+1	+1			折った回数	1	2	3	4	5	6	長方形の数	2	4	8	16	32	64			×2	×2	×2			言葉⇔表⇔数  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             折った回数が1増えると、長方形の数が2倍ずつ増える。           </div> 
		+1	+1	+1																											
折った回数	1	2	3	4	5	6																									
長方形の数	2	4	8	16	32	64																									
		×2	×2	×2																											
深 め る	5 答えの求め方について話し合う。 (ペア→全体)  ・紙テープを折って答えを確認する。  6 折り目の数の変化について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表に矢印や数、演算記号を書き入れながら説明させることで、より分かりやすく伝えることができるようにする。</li> <li>・10回折った場合についても考えさせることで、表を活用させることよさに気付かせる。</li> <li>・時間があれば1, 2, 3回折ったときの長方形の数を用いて、6回折ったときの数を求めることができそうかを考えさせる。</li> <li>・表から変化の決まりを見付けることができた児童には、言葉の式を考えさせる。</li> </ul> <p>*表から折り目の数を2倍した数に1を足すと次の折り目の数になることに気付くことができる。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td></td> <td>+1</td> <td>+1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>折った回数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>折り目の数</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>15</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>×2+1</td> <td>×2+1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			+1	+1			折った回数	1	2	3	4	5	折り目の数	1	3	7	15	31			×2+1	×2+1			言葉⇔表⇔数  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             折り目の数は、一つ前の数を2倍して1を足した数になっている。           </div> 				
		+1	+1																												
折った回数	1	2	3	4	5																										
折り目の数	1	3	7	15	31																										
		×2+1	×2+1																												
ま と め る	7 学習のまとめをする。	<p>&lt;板書のまとめ&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             表にまとめて変化の決まりを見付ければ、実際に折らなくても答えを求めることができる。           </div>																													



## 成果と課題

### 1 本時の授業の様子

「つかむ」過程では、「紙を折る」という具体物を使った操作で問題を提示しました。これにより、まず、折る回数が増えれば、折り目の数や長方形の数が増えるという関数の考えである依存関係を体験的にとらえさせることができました（図1）。次に、紙を折っていくと数回で折れなくなり、操作によって答えを求めることができないという困難さから、どのようにすれば答えを求めることができるのだろうかという問いが生まれました。この問いを基に、児童は、既習事項である表の活用に気付き、「表を使って、折り目で分けられた長方形の数を調べよう」という目当てを明確に持つことができました。



図1 紙を折って調べる児童

「追求する」過程では、多くの児童が表から答えを求めるだけでなく、帰納的に考えて数量の変化の決まりを見付けることができました。児童の中には、表だけでなくグラフをかいて決まりを見付けようとしたり、見付けた数量の変化の決まりを言葉や数で表したりするなど、多様な表現方法を用いる姿がうかがえました（図2）。

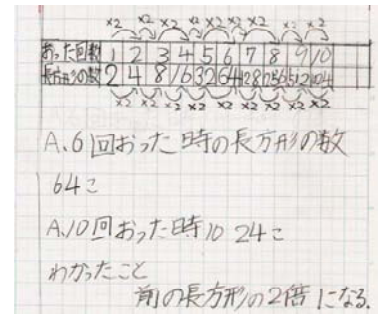


図2 児童のノート

「深める」過程では、考えの根拠を表を用いて筋道立てて説明したり、見付けた変化の決まりを活用して10回折った場合について考えたりすることができました。

### 2 実践を終えて

表現方法の相互の関連付けは、他者に自分の考えをより分かりやすく伝えるための方法であり、考える方法でもあります。思考力・表現力を育成するためには、特に図や式を読み取る活動や図をかく活動を積極的に取り入れていくことが大切だと考えます。

また、全体で話し合う前にペアで話し合う活動を設定しましたが、十分に活動を深めることができませんでした。このようにペアやグループでの話し合い活動を設定する際には、活動の目的を明確に持たせることや、児童の状況を的確に把握して本当に必要であるかを判断することが重要だと感じました。

第4・6学年の算数的活動の例示を参考にして単元末に設定した「身の回りから伴って変わる二つの数量を見付け、調べる活動」では、人の数と靴の数、はしごの段数と地面からの高さ、ペットボトルの数と全体の重さなど、比例関係にある二つの量を見付けることができ、第6学年の学習につながる活動となりました。児童の算数に対する認識を「覚える学習から習ったことを使う学習」へ変換させるためには、このような既習事項の活用を意識付ける導入やまとめ及び単元指導計画の工夫が必要と考えます。

### 実践者からのコメント

「関数の考え」の指導については、低学年からその素地的指導として二つの事柄の間の依存関係に着目することが求められています。例えば、第1学年「たし算」では、和が6になる計算を考える際、被加数が1増えると加数が1減るという関数関係を見付けることができます。また、第5学年「面積」では、三角形の面積の公式を読むことで、三角形の面積が底辺や高さの長さに依存することをとらえることができます。このように他の領域の学習内容にも「関数の考え」を指導することができるものがあります。他の領域と関連付けながら系統的に「関数の考え」を指導することが大切になってきます。

### 3 これからの方向性

実践では、「D数量関係」領域の思考力・表現力の育成を目指した授業づくりの例を示しました。他の領域においても、思考力・表現力の育成はもちろんのこと、実感的に理解し豊かな感覚を育てながら、学んで身に付けた知識・技能を日常生活や学習に活用することが求められます。

そこで、他の3領域における学習指導のポイントを次に示します。

#### 数と計算

#### 計算の意味や仕方を考え、説明する活動の充実

思考力・表現力の育成を目指した授業づくりとして、計算の意味や仕方を考え、説明する活動を一層充実させることが求められています。そのためには、図や数直線（図3）を活用することが大切です。特に、高学年の小数、分数の乗法、除法の指導では、数直線が役立ちます。数直線を活用できるようにするためには、中学年から系統的な指導をして、数直線の意味理解を深めさせておく必要があります。

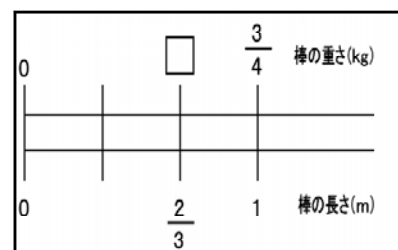


図3 数直線の例

#### 量と測定

#### 量感の育成を伴った測定活動の充実

量の大きさについて豊かな感覚を育成することが、この領域のねらいの一つです。これまでに実施された全国学力・学習状況調査の結果から、長さについての感覚はおおむね定着しているものの、その一方で面積についての感覚に課題があることも明らかになりました。次元数が増えるに従って、その量感がとらえにくくなります。また、高学年の「面積」や「体積」の指導では、求め方を考えさせたりその技能を習熟させたりすることが中心になりがちで、量感を伴った活動から離れる傾向があります。そこで、中・高学年の指導においても、低学年で重視した五感を使った体験的な活動や量の大きさの見当を付ける活動を設定することが大切になってきます。

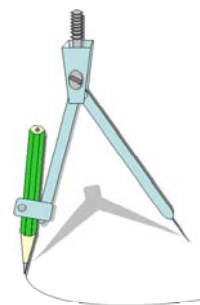
#### 図形

#### 図形の性質を基に具体的なイメージを持たせる活動の充実

図形領域の課題として、基本的な平面図形（例：ひし形）の定義や性質を基に、図形をとらえることが十分でないことが挙げられます。その要因は、平面図形を全体的、直観的なイメージでとらえ、構成要素に着目せずに弁別していることにあると考えられています。学習指導要領解説のp. 41には、各学年で指導する構成要素や図形の見方が一覧表で示されています。これに基づいて、次のような活動を設定することで、図形を部分的、分析的にとらえることができるようにすることが大切です。

- ・ これまでに学習してきた図形を新たな観点で見直す活動
- ・ 図形の性質について説明する活動

これらの活動を支えるのが、具体物を用いた作業的、体験的な活動です。例えば、敷き詰める活動は、角や平行といった図形の性質や他の図形を見付けさせることができ、図形の構成要素に着目させることにつながります。





## 1 理科授業づくりのポイント

今回の学習指導要領の改訂に伴い、小学校理科では、教科の目標の「自然の事物・現象の理解」に、「実感を伴った」という文言が付加されました。小学校学習指導要領解説理科編（平成20年8月）では、この「実感を伴った理解」について、「具体的な体験を通して形づくられる理解」「主体的な問題解決を通して得られる理解」「実際の自然や生活との関係への認識を含む理解」という三つの側面から説明がなされています。

そこで、小学校理科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 観察、実験などの具体的な体験の充実

理科では、観察、実験などの具体的な体験を通して児童が実証性、再現性、客観性をもって科学的に問題解決を進めていくことが基本ですから、これらの具体的な体験の充実は必須になります。特に、観察においては、今回の改訂で「身近な自然の観察」「雲と天気の変化」などの内容が追加になったことを受け、児童が、実際に外に出て、自分の目で見、肌で感じる体験を単元に位置付けることが大切です。また、小学校学習指導要領（平成20年3月）では、各学年の目標及び内容（内容の取扱い）に、これまであった「扱う月の形は2つとする」「第1種のものでこのみを扱う」などといったいわゆる「はどめ規定」がなくなり、幅広い体験が可能になっているので、このことに留意した授業づくりを進めていくことが大切です。

### Point 2

#### 見通しを持った観察、実験の重視

具体的な体験の充実が求められていますが、目的意識の乏しい体験活動になってしまうことは避けたいものです。理科の目標でも、「観察、実験などを行うこと」に、「見通しをもって」という文言が係っているように、目的意識を持つことの大切さが示されています。

ここでいう「見通しをもつ」とは、児童自らが見いだした問題に対して、予想や仮説を持ち、それらを基にして観察、実験などの計画や方法を工夫して考えることです。こうした見通しを持つことで、児童は、問題解決の過程が俯瞰できるようになり、観察、実験結果を、問題解決の目的に応じて処理したり、仮説と関連付けて考察したりすることができるようになります。

### Point 3

#### 自然や生活との結び付きを図る学習の充実

児童は、理科の学習で学んだ自然の事物・現象の性質や働き、規則性などが実際の自然の中で成り立っていることに気付いたり、生活の中で役立てられていることを確かめたりすることにより、理科を学ぶことの意義や有用性を実感していくことが期待されます。今回の改訂では、特に、「A物質・エネルギー」の指導について、「ものづくり」が重視されています。小学校学習指導要領（平成20年3月）では、各学年の目標及び内容の「3 内容の取扱い」に、「2（3）種類以上のものづくりを行うものとする」と示されており、その充実が求められています。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名 「植物の発芽」(第5学年)

Point 1

Point 2

を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

Point 1

#### 観察、実験などの具体的な体験の充実

本単元は、従来からある単元ですが、今回の改訂で、現行小学校学習指導要領(平成10年12月)理科の「内容の取扱い」に示されていた「土を発芽の条件や成長の要因として扱わないこと」という「はじめ規定」がなくなりました。また、教科書ではよく単一の種類の植物が紹介されていますが、植物を一般化した結論を導くには不十分ともいえます。そこで、本実践で、観察、実験などの具体的な体験の充実を図った授業展開を探っていきたいと考えました。

Point 2

#### 見通しを持った観察、実験の重視

さらに、本単元では、第5学年の問題解決能力として示されている「条件制御」の見方や考え方の育成が大切になります。児童は、この見方や考え方を基にして、適切な観察、実験計画の立案や、適切な結果の処理や考察をしていくようになります。そこで、かぎになってくるのが、言語活動です。今回の改訂の趣旨にも、「言語活動の充実」として、「観察、実験において結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現することを一層重視する必要がある」と示されていますが、本実践で、見通しを持った観察、実験の重視を図った授業展開を探っていきたいと考えました。

## 2

### 学習指導の実際

1 単元名

「植物の発芽」(第5学年)

2 目標

植物の発芽の様子について興味・関心を持って追究する活動を通して、植物の発芽が関係していることについて条件を制御して調べる能力を育てるとともに、それについての理解を図り、生命を尊重する態度を育て、植物の発芽とその条件についての見方や考え方を持つことができるようにする。

3 実践の概要

時	学 習 活 動	活動の支援と評価規準 (○活動の支援, ●評価規準)
第1時	・インゲンマメ, トウモロコシ, ハツカダイコンを植え, 発芽の様子を観察する。	○これまでの生活経験から児童がさほど不思議だと思っていなかったことに対して教師があえて問いかけ, 問題を顕在化させる。
問題をつかむ	<p><b>Point 1</b> 具体的な体験の充実…インゲンマメだけでなく, 複数種の植物を扱う</p> <p>教科書ではよく単一の種類の植物が紹介されていますが, 児童の導くべき結論は, 「植物の発芽には…」と, 植物を一般化したものです。そこで, 本実践では, 一般化につながる体験の充実を図るため, 複数種の植物を扱っています。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">植物の発芽には, どんな条件が必要か。</p>	

土，養分，光の条件を調べる計画を立てる

- ・発芽に必要な条件を予想する。
  - ・水
  - ・土
  - ・養分
  - ・光
  - ・空気
  - ・適当な温度
- ・各班で実験計画を立てる。
- ・まず，土，養分，光の条件について，各班で種子を選び，分担して調べる。

- これまでの学年でヒマワリやジャガイモを植えた経験を想起させたり，極寒の土地の様子を想像させたりして，理由を求める。
- 六つのうち，まず，発芽に必要なと考えられる条件を挙げさせ，挙げられた三つの条件を予備的に調べる計画を立案させる。

条件	比較対照
土	AとB
養分	AとC
光	AとD

**Point 1** 具体的な体験の充実…複雑な活動を，話し合いによって整理する

今回の改訂で児童の思考に即した多様な条件を扱うことが可能になりましたが，六つの条件を一度に扱うことは困難です。そこで，話し合いによって児童の主体性を大切にしながら条件を三つずつに整理させ，追究しやすくします。

- ・変える条件，変えない条件は，表に整理すれば分かりやすくなることを確認し，これを基に実験装置を組む。

条件	A	B	C	D
土	あり	なし		
養分	なし		あり	
光	あり			なし

- どんな表にすれば分かりやすいかを考えさせ，合意した様式でそれぞれに整理させる。
- 三つの条件について，変える，変えないを整理して実験の計画を立てることができる。
- 今回扱わない条件も変えないことを確認させるとともに，Dには光を当てないように水を与えることなどの留意点を確認させる。

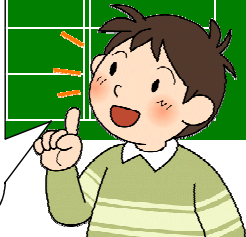
第2時 調べた結果を処理，考察する

- ・各班の実験結果を板書に示された表に書き込む。(発芽…○，不可…×)

- 考察の話型を提示し，それに倣って話し言葉でノートに書かせ，口頭で説明させる。

条件	対象	インゲンマメ			トウモロコシ			ハツカダイコン			必要か
		1班	6班		2班	3班	8班	4班	5班	7班	
土	有	○	○		○	○	○	○	○	○	不要
	無	○	○		○	○	○	○	○	○	
養分	有	○									
	無	○									
光	有	○									
	無	○									

1班は，インゲンマメで発芽条件を調べました。まず，土の条件について，AとBで比べたところ，Aは発芽して，Bも発芽しました。このことから，土の条件は，発芽には必要ないものであると考えられます。



- ・各班が導いた結論から，一般化した結論を導く。

**Point 2** 見通しを持った観察，実験…仮説と関係付けた考察の定型を指導する

仮説と関連付けた考察を児童にさせるためには，話型の提示などによる定型の指導も，初期の段階では必要です。理科では，修辞技法を用いず，「だから」「このことから」などの接続語を適切に用いた端的な言語表現が求められます。

第3時 水、空気、適切な温度の条件を調べる

- 水、空気、適切な温度の条件について、各班で選んだ種子で調べる。

○土、光が必要でないことから、脱脂綿や冷蔵庫の使用に問題がないことを確認させる。

水あり（脱脂綿） 水なし（脱脂綿） 水に浸し空気遮断 Aを冷蔵庫に

条件	比較対照	
水	AとB	
空気	AとC	
適温	AとD	

条件	A	B	C	D
水	あり	なし		
空気	あり		なし	
温度	適温			低温

- 結果を予想と関係付け、検討する。
- 水を熱すると溶けていた空気が泡となって出てきたことから、煮沸した水を冷やして用いた修正実験を行う。

- 変える条件、変えない条件を前の実験で確認した様式の表に整理させ、立案させる。
- 三つの条件について、変える、変えないを整理して実験の計画を立てることができる。

- 発芽が予想されるC（図1）については、その原因を考えさせ、修正実験をさせる。



図1 水中で発芽した種子

**Point 1** 具体的な体験の充実…予想と異なる結果が出る実験を意図的に入れる

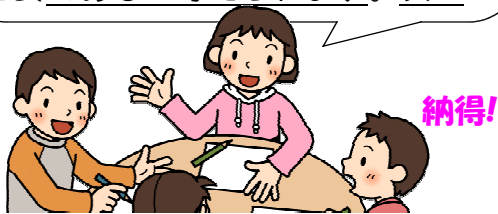
Cの実験は、種子をただ水に浸すだけでは、その多くが発芽してしまいます。この結果に児童は戸惑うことが予想されますが、教師は、この児童の失敗の体験を価値ある体験ととらえ、取り組みの再検討の指導をしていきたいものです。

第4時 調べた結果を処理、考察する

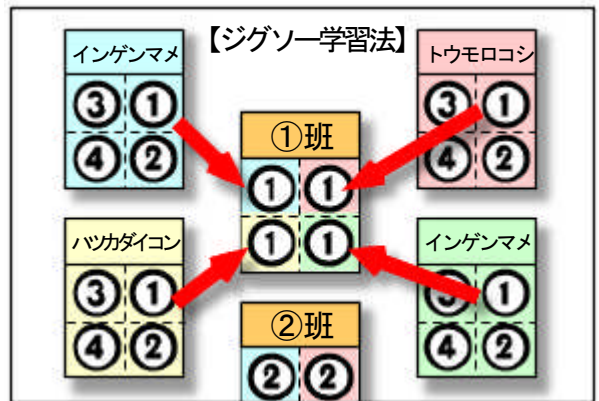
- 考察を先の話型に倣ってノートに書き、図等を用いて口頭で説明する。

- 次のように、各班1名の児童で交流用の班を組ませ、他の班に対して自分たちの班の考察を自力で説明する機会をつくる。

わたしは、トウモロコシで発芽条件を調べました。まず、水の条件について、AとBで比べたところ、Aは発芽し、Bは発芽しませんでした。このことから、水の条件は、発芽に必要であると考えられます。次に…



- 最後に、学級全体で結論を確認する。



- 考察を端的な言葉でノートに書き、口頭で説明し、友達の納得を得ることができる。

**Point 2** 見通しを持った観察、実験…考察を他者に説明する必然をつくりだす

各班が別の種類の植物で実験しているため、結果の交流が求められてきます。そこで、交流用の班を組ませ、考察を他者に説明する場を設定します。友達の納得を得ることで、児童は、考察の意義を再認識することでしょう。



### 3

## 成果と課題

### 1 授業の様子

○「わたしたちがきちんとした結果を出さなくては…」

本実践では、植物を一般化した結論を導かせるために、インゲンマメ、トウモロコシ、ハツカダイコンという複数種の植物を扱い、各班の児童に種子を選ばせ、分担して調べさせました。こうしたことで、児童は、役割意識を持って主体的に問題追究をしていきました。

「トウモロコシを担当したのはわたしたちの班だけなので、きちんとした結果を出さなくてはならない」と、児童の追究活動は、慎重かつ緻密なものになって充実していきました。

○「失敗は成功の元」

本実践では、児童の取り組みの再検討を期待して、予想と異なる結果が出る実験を意図的に入れました。水に浸した種子から発芽すると思っていなかったハツカダイコンの芽が出たときには、その日の朝の教室がちょっとした騒ぎになりました。しかし、そこから児童の真剣な原因の追究が始まりました。教師の助言もあって、水に溶けていた空気を取り除いての修正実験で課題を克服したときは、まさに、「失敗は成功の元」が実感できた瞬間でした。

○「豆科学者」登場！

本実践では、児童が同じ班の友達に頼ることなく、自力で考察を説明できるようになることを目指して、先にも示した「ジグソー学習法」といわれるグループ学習法を取り入れました。

児童は、まず、話型に倣い、慎重に言葉を選びながらノートに原稿を書き、次に、それを基に自信を持って説明しました。

そこには、頼もしい「豆科学者」の姿が見られました（図2）。



図2 考察を説明する児童

### 2 実践を終えて

#### (1) 実践のねらいに照らし合わせて

本実践のねらいは、観察、実験などの具体的な体験の充実を図った授業展開を探っていくことと、見通しを持った観察、実験の重視を図った授業展開を探っていくことでした。

具体的な体験については、複数種の植物の扱いなどによって充実を図ることができましたが、基本に見据えておきたいことは、それらの体験を児童の問題追究の必然に基づいたものにするのと、多様な体験活動は分担させたり順序立てたりする必要があるということです。

見通しを持った観察、実験については、考察の指導が有効であることが分かりました。これまでの理科の授業では、観察、実験に重きが置かれていて、考察の指導は十分でない傾向にありました。初めは定型を示してでも、説明する経験を全員に持たせることが大切です。

#### (2) 単元の目標に照らし合わせて

本単元では、実践の概要の●で示しているように、実験の計画を立てることと、考察を説明することという、思考力・判断力の育成を重点として学習指導を実践してきました。

6月初旬の実践ということもあり、表の様式を児童と共に考えたり考察の話型を示したりと、定型の指導に重きを置き、成果を得ましたが、型の機械的な習得に陥らないよう、どのような型が有効かを考えさせたり、型を使うことの意義を実感させたりする指導が必要です。

### 実践者からのコメント

本実践では、児童が実験計画を立てることと実験結果を処理、考察することに時間を取って、丁寧に指導してきました。当初は、「理屈っぽい授業になるかな」と心配していましたが、児童は、真剣に考え、堂々と説明し、むしろ、科学的な思考を楽しんでいるかのようでした。今後も、観察、実験の実施のみに終わらない、「考える」授業を展開していきたいと思えます。

### 3

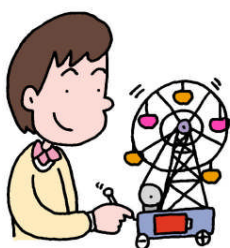
## これからの方向性

今回の学習指導要領の改訂で、理科では、小・中・高等学校を通じた内容の構造化が図られました。具体的には、それぞれの指導内容が、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」という四つの科学の基本的な見方や概念を柱として系統的に位置付けられたということです。

ただし、小学校理科においては、これらの柱についての深入りした理解は求められてはいません。教師が系統を少し意識して指導することによって、それらの見方の素地を培うことが大切になってきます。そこで、四つの科学の基本的な見方や概念の柱それぞれの学習指導のポイントを次に示します。

### エネルギー

#### 「調整」を意識したものづくりの学習指導



第3学年「風やゴムの働き」では、おもちゃの自動車などのものづくりによって、児童が自然の仕組みやきまりを遊びを通して見いだしていくことが期待されます。このように、生活と結び付いた理科の学習を図る上で、ものづくりは大切です。また、この單元には、「調整」の指導を行うことも示されています。今後は、エネルギーに対して、「制御」の概念や「バランス」の感覚を身に付けさせることを意識した学習指導が求められてきます。

### 粒子

#### イメージ図による思考を導入した学習指導

第4学年「空気と水の性質」では、内容に、「空気の体積変化について説明するために、図や絵を用いて表現することができるようにする」と示されています。今後は、このように、目に見えない粒子を可視化し、説明可能なものにしようとするイメージ図（粒子を点の集まりや人の表情などで表したもので、モデル図とは異なり、児童の素朴な見方を大切にしたもの）による思考が求められてきます。



### 生命

#### 視点を持った観察を重視した学習指導



第4学年「季節と生物」では、年間を通じた動物や植物の観察が求められます。したがって、児童には、動物の種類や数、植物の大きさや成長する速さなどといった観察の視点を明確に持たせておくことが大切です。このように、「生命」の領域の学習指導では、視点を持った観察が重視されています。そこで、教師は、今後、観察記録やスケッチをさせる際、何を見て、どうかくかを具体的に指導していく必要があります。

### 地球

#### 実際の観察とモデルとを結び付けた学習指導

第6学年「月と太陽」の学習においては、実際の観察だけでは、児童に十分な理解を図ることは困難です。「地球」の領域には、広大な空間や長大な時間の中で繰り返されている自然事象が数多くあり、直接体験だけでは指導に限界があります。そこで、今後、大切になってくるのが、実際の観察とモデルとを結び付けた学習指導です。ボールを月に、電灯を太陽に見立てて光を当ててみるというモデル実験を行います。こうすることで、天体でも同じ現象が起こっていることを推論しやすくします。



※本ページ掲載イラストは、「教育技術」誌 CD-ROM付録 小学館（2002）のものを使用しています。



## 1 生活科授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説生活編（平成20年8月）では、「内容」及び「内容の取り扱いの改善」において「気づきの明確化と気づきの質を高める学習活動の充実」「伝え合い交流する活動の充実」「自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実」「安全教育や生命に関する教育の充実」「幼児教育及び他教科との接続」の5点について主として改善が図られています。

ここでは、小学校生活科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容のうち、気づきの質を高める学習指導の進め方をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 言葉で振り返り、表現する機会の設定

活動したことや体験したことを言葉などによって振り返ることで、無自覚だった気づきが自分の中で明確になったり、それぞれの気づきを共有し、それぞれの気づきを関連付けたりすることが可能になります。例えば、「ぶどうみたいな実を見つけたよ」「みかんのようなおいがしたよ」など、諸感覚を生かした豊かな体験をすることで、体験したことをこれまでの体験につなげて表現することが考えられます。また、教師の働きかけや言葉かけにより、児童の気づきが質的に高まり、考えを言葉で表現するようにもなります。例えば、雲を見つめながら「白くてふわふわだったよ」とつぶやいたとき、教師が「何みたいかな」と投げかけることによって「綿菓子みたい」「うさぎさんのように」などと表現することが考えられます。

### Point 2

#### 伝え合い、交流する場の工夫

互いに伝え合い、交流する活動は、気づきを集団で共有するだけでなく、一人一人の気づきを質的に高めていくことにつながります。例えば、「友達が調べているあのお店の人、早起きして頑張っているな」と発表を聞いて考え、「私が調べているお店の人は、他にどんなことを頑張っているのかな」と次の活動意欲へとつながっていくように、体験したことや調べたことを伝え合う中で、他者の発表内容と比較し考えを持ち、新たな活動が始まると考えられます。また、幼児や異学年の児童、地域の人々との交流など、伝えたいことが相手になかなか伝わらない状況では、相手の反応から何が足りないかに気づき、次の活動が明確になるなど、児童の学習を促進させることが考えられます。

### Point 3

#### 試行錯誤や繰り返す活動の設定

試行錯誤して何度も挑戦したり、繰り返し自然とかかわったりすることが気づきの質を高めることにつながります。例えば、ドングリごまの大きさや形、軸の立て方、回し方などを何度も試し、作り直す過程で質的に高い新たな気づきが生まれると考えられます。また、異なる野菜の世話を毎日繰り返すうちに「ミニトマトもナスも、花が咲いたところに実がなります」「別の野菜もみな同じでした」「つるが伸びるのはキュウリだけです」と植物の斉一性や多様性に気付くことが考えられます。



## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名「いっしょに あそぼうよ」

Point 1

Point 2

を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

平成20年告示の小学校学習指導要領では、気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実についての改善が求められています。ここでは、第1学年の実践事例を紹介し、前述の、**Point 1** **Point 2** を生かした授業例を紹介します。

本実践では、幼稚園との交流を中心に単元を構想し、そのときの活動や体験を振り返って新聞作りに取り組む活動を通して、気付きの質を高める学習指導を進めました。

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 本単元で期待される児童の姿



対象	関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
人	幼稚園児や友達との活動を楽しみ、進んでかかわっていきこうとする。	幼稚園児に喜んでもらうためにはどう表せばよいか考え、計画・準備をする。	幼稚園児や友達と共に活動するよさや楽しさに気付く。
遊び	幼稚園の遊具やおもちゃ、自分たちで作ったおもちゃなどで楽しんで遊ぼうとする。	どうしたらみんなが楽しめるおもちゃやお店ができるかを工夫しながら作る。	遊びを工夫することで、みんながより楽しめるようになることに気付く。
自分	自分の活動を進んで振り返り、今後の学習に生かしていこうとする。	幼稚園児とのかかわりで、自分が頑張ったこと、思ったこと、気付いたことなどを表す。	自分のしたことが幼稚園児の喜びにつながることに気付く、自分のよさや頑張り、成長に気付く。

#### 2 気付きの質を高める単元指導計画（全18単位時間）

次	児童の主な活動と思いや願い、気付き	教師の主な支援
第一次	第1時 幼稚園に行く計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では、上の学年の人にいろいろしてもらっているな。</li> <li>・自分たちは、幼稚園に行って幼稚園児を喜ばせてあげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学したころ、上級生にしてもらったことを想起させることで、幼稚園児に何かしてあげたいという思いや願いにつなげる。</li> </ul>
幼稚園に行こう	第2・3時 幼稚園に行く準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校のことを教えてあげられるものを持って行こう。(手紙, 新聞, 押し花, 写真, 絵)</li> <li>・どんなことを教えてあげようか。(生き物, 部屋, 先生, 勉強)</li> <li>・どんなことをして一緒に遊ぼうか。</li> <li>・幼稚園児が喜んでくれるといいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校のことを教える活動が、入学してからの学校生活を振り返る表現活動や気付きを質的に高める活動になることを意識して支援に当たる。(声かけ, 表現方法の紹介, 準備物)</li> </ul>
う	第4・5時 幼稚園に行き、幼稚園児と遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園は久しぶりだな。変わったこともあるな。</li> <li>・自分が行った園とは〇〇が違うな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園に行き、しばらくは、幼稚園のもので遊ぶ児童が多いと思われるので、この機会を見て、幼稚園児と遊ぶことがで</li> </ul>

<p>第一次 幼稚園 に行こう</p>	<p>第6・7時 幼稚園訪問についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園児は喜んでくれているかな。</li> <li>幼稚園児と遊ぶのは楽しいな。</li> </ul> <p>幼稚園で遊んだのが楽しかったな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園児は喜んでくれたかな。</li> <li>幼稚園児と遊んだことを新聞にまとめよう。</li> <li>新聞を他の学年の人にも見てもらいたいな。</li> </ul> <p><b>Point 1</b> 活動したことや体験したことを言葉などによって振り返っています。無自覚だった気付きが明確になっていく場面です。</p> <p>第8時 まとめたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園児もいろんなことができるんだな。</li> <li>自分や友達にもあんなときがあったんだな。</li> <li>また幼稚園児と遊びたいな。</li> </ul> <p><b>Point 2</b> 伝え合い、交流する活動により、気付きの共有とともに、自分や友達の成長に気付くことができます。この場面は、一人一人の気付きの質を高めています。</p>	<p>きているかどうか声かけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園児と遊んでいる児童の写真を紹介し、自分が幼稚園児を喜ばせることができたかどうか、振り返る視点を与える。</li> <li>活動を振り返りやすくするために、グループごとに主な活動の写真を用意する。</li> </ul> <p>発表の中で出てきたよい気付きを取り上げることで、幼稚園児への気付きだけでなく、自分や友達の成長に気付いていけるようにする。</p>
<p>第二次 幼稚園児 を招待し よう</p>	<p>第1時 幼稚園児を招待する計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今度は幼稚園児を学校に呼びたいな。</li> <li>自分たちの作ったお店で遊んでもらいたい。</li> <li>幼稚園児を招待する計画を立てよう。</li> </ul> <p>第2～5時 幼稚園児を招待する準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園児が楽しめるお店を作ろう。</li> <li>早く幼稚園児を呼びたいな。</li> <li>自分も友達も頑張っているな。</li> </ul> <p>第6・7時 幼稚園児を招待して一緒に遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽しそうに遊んでくれているよ。</li> <li>楽しんでもらえると、自分もうれしくなるよ。</li> <li>来年入学してくるのが楽しみだな。</li> </ul> <p>第8・9時 幼稚園児を招待したことをまとめる。 (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽しかった思い出を新聞にしよう。</li> <li>他の学年の人にも紹介したいな。</li> <li>自分も友達も頑張ったな。</li> </ul> <p>第10時 まとめたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇さんはよいことに気付いたね。</li> <li>またこんな活動ができたらいいな。</li> </ul> <p><b>Point 2</b> 友達の発表内容と比較し考えを持つことが、次からの活動を豊かなものにしていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次の活動をしっかり想起させてから、幼稚園児とまた遊びたい、今度は小学校に招待したいという思いや願いを持つことができるようにする。</li> <li>幼稚園児に喜んでもらうにはどうしたらよいか、第一次での気付きを基に考えられるようにする。</li> <li>他教科等と関連を持たせて計画を進める。</li> <li>当日までの頑張りを称揚し、自分や友達のよさや成長に気付くことができるようにする。</li> <li>一人一人の思いや願い、気付きを引き出すため、また、レイアウトしやすくするため、各自に用紙を配り、それに書いてから台紙にはるようにさせる。</li> <li>一人一人の思いや願い、気付きを受け止め、本単元の学習をしてよかったと思えるような声かけをしてまとめる。</li> </ul>

### 3 本時案（第二次第8・9時）

目標	幼稚園児をお店に招待したときのことを振り返り、活動したことや思ったこと、気付いたことなどを絵や文で表して、新聞にまとめることができる。	
学習活動と児童の思い・願い・気付き		教師の支援
<p>1 幼稚園児をお店に招待したときのことを振り返り、目当てをつかむ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園児にお店を楽しんでもらってよかったな。</li> <li>・幼稚園に訪問したときは、幼稚園児と余り話ができなかったけど、今回はしっかり話ができよかったな。</li> <li>・頑張って準備してよかった。</li> </ul> </div>	<p>○幼稚園児を招待したときのことを想起しやすくするために、そのときの写真を提示する。</p> <p>○それぞれのお店の様子はどうだったか、幼稚園児の様子はどうだったか、どんなことに気付いたか、どんなことを思ったかなど自由に発言させたことを板書し、新聞作りに生かすことができるようにする。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ようちえんの人をおみせにまねいたときのことをしんぶんにして、いろいろな人にみてもらおう。</p> </div>		
<p>2 お店のグループごとに新聞を作る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は〇〇のことを新聞に載せたいな。</li> <li>・どの写真を使おうかな。</li> <li>・お店で遊んでいたとき、幼稚園児はどんな様子だったかな。</li> <li>・作っているうちに気付いたことがあるよ。</li> <li>・友達も頑張って作っているな。</li> <li>・他のグループの新聞も見て参考にしよう。</li> </ul> </div>	<p>○一人一人の思いや願い、気付きを引き出すため、また、レイアウトをしやすくするため、各自に色別のカードを配り、それに書いてから台紙にはるよう指示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>ピンク…「きづいたよカード」          黄色…「たのしかったよカード」          水色…「がんばったよカード」          白…「フリーカード（無地、けい線入り）」</p> </div> <p>○作成に当たり次の点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動1で出たことや自分たちが気付いたことなどを入れて作る。</li> <li>・絵や文などを分担して、内容がなるべく重ならないようにする。</li> <li>・写真を切って使ってもよいこととする。</li> </ul>	
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;"><b>Point 1</b></div> <div> <p>活動したことや体験したことを、新聞作りで表現し振り返ることで、無自覚だった気付きが自分の中で明確になっていきます。</p> <p>また、協同した活動は、言葉などによる交流が活発になり、気付きを共有することだけでなく、それぞれの気付きを関連付けた、より確かな気付きとなっていきます。</p> </div> </div> </div>		
<p>3 本時を振り返り、次時の学習への見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よい新聞ができてよかった。</li> <li>・早く新聞に書いたことを発表したいな。</li> <li>・他のグループの発表を聞くのが楽しみだな。</li> </ul> </div>	<p>○出来上がった新聞のよいところを称揚し、自分や友達の頑張りがよさを実感できるようにする。</p> <p>○一人一人の思いや願い、気付きを受け止め、次時の発表への意欲につながるような声かけをする。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	

### 1 本時の授業の様子

新聞作りは1学期から数回行っており、児童は身に付けた表現方法を生かしながら、お店グループごとに絵や文、写真を使って新聞を作っていました(図)。それまで無地のカードを配っていましたが、色別カード(※本時案参照)を選んで書くようにしたところ、単に活動したことを表現するだけでなく、互いの気付きや自分たちの頑張りに目を向けることができました。

各自が表現したものを、1枚の新聞にまとめていく活動の中で、同じお店グループの友達が気付いたことに目を向けることができました。

#### 新聞に書かれた児童の気付き

- ・「みんながあんなにあそぶなんておもわなかったよ。みんながあんなにできるなんておもわなかったよ。」
- ・「くくるひもがなくなったけど、じぶんたちでかいけつして、そのじけんをのりこえたじぶんたちがすごいとおもった。」
- ・「いそがしいけど、みんなでちからをあわせてがんばったよ。たのしかったよ。」
- ・「プレゼントをもらったら、うれしそうにちがうみせにいました。わたしはうれしいなとおもいました。」



図 新聞作りをする児童

### 2 実践を終えて

異年齢集団とのかかわりは、同年齢集団とのかかわりとは違う学びがあります。第1学年の児童は、小学校に入るとしてもらうことが多く、受け身になりがちなので、自分たちが積極的にかかわれる幼稚園児との交流を大切にしたいと考えました。1学期に幼稚園へ訪問したときは、幼稚園児に声をかけることができなかった児童が、自分たちの作ったお店に招待したときには、お店で楽しんでもらおうと、呼び込みをしたり、誘ったり、分かりやすく説明したりしていました。ほとんどの児童が自分の力を発揮して、幼稚園児に楽しんでもらおうと頑張っていたと思います。今後も充実した活動や体験がより質の高い気付きにつながるよう工夫していきたいと考えています。

第1学年の児童にとって、共同作業である新聞作りは難しいと思いましたが、個々にカードを用意して書かせるようにすれば、生活科カードと同じように扱えると考えました。入学当初は白色無地のカードを配りましたが、気付きの質を高めるためには、カードの種類に多様性を持たせる工夫が必要であると感じ、本時から4種類のカードを使用しました。児童の実態や成長に合わせて、カードも変えていくと、より質の高い気付きを引き出すことができると思います。また、グルーピングや新聞にする台紙の大きさ、カードの枚数なども、振り返る活動や内容に合わせたものにしていく必要があると感じました。

新聞を作ることで気付きはある程度高まりますが、更に気付きの質を高めるためには、作る前に活動を思い出す時間を取ること、作った新聞を基に発表したり話し合ったりする活動を取り入れることが大切だと思いました。

#### 実践者からのコメント

気付きの質を高める上で、他教科との関連の重要性が指摘されていますが、生活科の他単元との関連も重要になると考えられます。今回の幼稚園との交流は、校内での第2学年や第6学年との交流での気付きから、思いや願いを高めていきました。また、おもちゃ作りの単元と関連付けて、自分たちが作ったお店に招待することで、相手意識、目的意識を高めることができました。活動ごとに高まっていく気付きを、その活動だけで終わらせるのではなく、更に広げていく工夫をしていくことが大切になるのではないかと思います。

## 3 これからの方向性

各学校においては、学習指導要領の改訂の要点について十分理解し、趣旨を生かした授業づくりが求められています。

そこで、これからの小学校生活科の授業において、課題となるポイントを次に示します。

### 幼児教育との接続

### 生活科を中心とした合科的な指導

幼児教育との接続の観点から、幼児と触れ合うなどの交流活動や他教科等との関連を図る指導は、今後も引き続き重要です。各学校では、幼児教育との接続の観点から、指導計画の整備や交流活動の計画、指導者同士の連携研修などを行うことが必要です。

さらに、第1学年当初の児童が学校生活へ適応できるよう、合科的な指導を行うことなどの工夫により、カリキュラムをスタートカリキュラムとして改善することが望まれています。



スタートカリキュラムは、大単元から徐々に各教科に分化していきます。つまり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となるのです。このことにより、小1プロブレムなどの問題を解決し、学校生活への適応を進めることになるものと期待されています。

### 動植物とのかかわり

### 生命に関する教育の充実

生命の尊さを実感する体験が少なくなっている現状を踏まえ、生命に関する教育については、一時的、単発的な動植物とのかかわりにとどまるのではなく、例えば、季節を越えた飼育活動で成長を見守ることや開花や結実までの一連の栽培活動が行われることなど継続的な飼育・栽培が望まれています。継続的な活動を通してこそ、生命の尊さを実感できるものです。



### 自然の不思議さ・面白さ

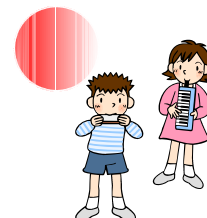
### 自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実

従前では、遊びの場づくりが中心であった内容(6)「自然や物を使った遊び」ですが、今回の改訂で、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることで、児童が遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付くことができるようにすることが強調されています。

内容(6)で特に気を付けたいことは、平成20年1月の中央教育審議会の答申に示された「科学的な見方・考え方の基礎」についての理解を誤り、ややもするとかつての低学年理科のような指導をしてしまうことです。低学年理科は、教えたい原理があるので素材や活動が限定的でした。しかし、生活科は、子どもたちの思いや願いを大切にしようとしているので、期待する子どもたちの姿や素材、活動が多様になるはずです。

内容(6)は、生活科において経験を豊かにすることにより、第3学年以降の理科が充実すると考えて構成されています。





## 1 音楽科授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説音楽編（平成20年8月）では、目標について、「表現及び鑑賞の各活動を通して、音楽を愛好する心情、音楽に対する感性、音楽活動の基礎的な能力が互いにかかわり合って、豊かな情操が養われていく。したがって、実際の指導においては、心情と感性を育成する面と能力を伸長する面とが不即不離のものとして取り扱われ、同時に育てられるべきものであることを念頭に置いておく必要がある。」と示されています。音楽科の目標を実現していくためには、特定の活動領域に偏ることなく、小学校6年間を通して、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の各活動が授業の中で展開されていくことが重要になります。教師は、何をねらいとして、児童にどのような音楽に出会わせ、どのように音楽とかわかわらせて学習を進めていくのかをよく考える必要があります。

そこで、小学校音楽科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 6年間を見通した年間指導計画の作成

6年間を見通して児童に身に付けさせたい力を授業の中でどのように実現していくのか、他の教科や学校行事などとの関連をどのようにしていくのか、児童や学校、地域の実態を生かした具体的な学校独自の全体計画を立案する必要があります。

年間指導計画は、小学校学習指導要領音楽科の目標やそれぞれの学年目標を達成するために、時期、学習内容、題材、目標、教材、指導時間などを具体的に示すことが大切です。また、関連する評価、学校行事、特別活動、他の教科、道徳などの項目を入れると全容が見えます。

小学校と中学校の義務教育9年間ではぐくむ資質や能力が、学習指導要領音楽科の各事項に貫かれて示されています。また、小学校学習指導要領音楽科においては、学年の目標及び内容が2学年のくくりで示されているため、2年間を見通しての題材配列や系統性を検討する必要があります。小学校6年間全体を見通して、小学校の音楽科で身に付けさせたい力の実現可能な年間指導計画を作成することが大切です。

### Point 2

#### 〔共通事項〕の位置付け

教師は、音楽活動を通して、児童が音や音楽を聴いたり表現したりしようとする能力に働きかけて、児童の様々な可能性を引き出し、育て、高めていくことが必要です。そのためには、児童の表現意欲や表現意図を引き出し、児童が音や音楽を聴き取り、そのよさや美しさ、面白さを感じ取って、思いや意図を持って、生き生きと表現したり味わって聴いたりする活動を組み立てることが大切です。その際、〔共通事項〕は表現及び鑑賞の各活動と関連させて指導するように、位置付ける必要があります。〔共通事項〕に示された音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出す曲想を感じ取って、思いや意図を持って自分なりに曲想に合った表現を工夫するなど、児童が自らの感性や創造性を発揮しながら、自分にとって価値ある新しい歌唱表現や器楽表現をつくり出す授業を展開できるようにすることが大切です。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆実践事例1 題材名「曲の仕組みが分かると楽しいね」

◆実践事例2 題材名「日本の音楽っていいね」

## 1

### 実践のねらい

**実践事例1** 鑑賞活動の支えとして〔共通事項〕を位置付ける。

本題材では、楽曲を形づくっている要素や仕組みを聴き取ったり、感じ取ったりする活動を通して、楽曲の持つよさや美しさ、面白さを感じ取る心を育てることをねらいとします。

鑑賞活動の支えとして、〔共通事項〕アー (イ)「音楽の仕組み」のうち、「変化」〔中学年〕について取り上げた、第3学年における実践事例です。

**実践事例2** 〔共通事項〕を手がかりに「我が国の音楽」を展開する。

本題材では、日本の旋律の美しさや日本の楽器の音色、響きの美しさに触れさせ、児童が日本の音楽に関心を持ち、その特徴や響きの美しさを感じ取る力を育てることをねらいとします。

〔共通事項〕アー (イ)「音楽を特色付けている要素」のうち、「音色、リズム、速度、強弱、音の重なりや和声の響き」〔高学年〕を手がかりに、第6学年において、和楽器の音楽を含めた鑑賞の学習活動を展開します。

## 2

### 学習指導の実際

#### 実践事例1

#### 第3学年の実際

1 題材名「曲の仕組みが分かると楽しいね」(全1単位時間)

2 指導する事項

[第3学年及び第4学年] 内容 B鑑賞(1)

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

[共通事項]

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素

(イ) 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組み

3 題材の目標

○音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取る。

○楽曲の構造に気を付けて聴く。

○要素や仕組みが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取る。

4 題材設定の理由

「音楽の仕組み」のうち、ここでは「変化」について取り上げた。「本題材のねらい」は、音楽を特徴付けている要素や仕組みの一つを聴く観点として示すことによって、その楽曲のよさや美しさ、面白さを感じ取る心を育てることである。

5 教材及び教材選択の理由

(1)教材

「きらきら星変奏曲」

(2)教材選択の理由



「一つのメロディーが変奏されている」ということが、児童のだれにでも聴き取ることができる曲を選択した。



Point 2



表1 学習指導案（本時案）

	主な学習活動	教師の働きかけ
	変奏曲の仕組みを理解して聴く	
聴く	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「きらきら星」を教師のピアノで聴き、確認する。</li> <li>○「きらきら星」を歌唱する。</li> <li>○「きらきら星変奏曲」の第一変奏を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一変奏は教師の「きらきら星」と感じがどう違うのか、グループで相談する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メロディだけを聴かせる。</li> </ul>
聴き比べる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>Point 2</b></p> <p>曲の感じの違いを〔共通事項〕を手がかりにグループ内で話し合う（図1）。</p> </div>  <p style="text-align: center;">図1 話し合う児童</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・★のシールを台紙にはり、★の数で感じの違いを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○変奏曲をAさんの「きらきら星」であると知らせ、教師の「きらきら星」と感じがどう違うのかを目当てに、第一変奏だけを聴かせる。</li> <li>○教師の「きらきら星」を★一つとしたとき、Aさんの「きらきら星」からいくつの★が聴こえたかを考えながら聞かせることにより、曲の感じの違いをつかむことができるようにする。</li> </ul>
感じ取る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>Point 2</b></p> <p>曲の感じの違いを〔共通事項〕を手がかりにグループ内で話し合う。</p> </div>  <p style="text-align: center;">図2 シールをはる児童</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・★のシールを台紙にはり、★の数で感じの違いを発表する（図2）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○変奏曲をBさんの「きらきら星」であると知らせ、教師の「きらきら星」やAさんの「きらきら星」と感じがどう違うのかを目当てに、第三変奏だけを聴かせる。</li> <li>○教師の「きらきら星」を★一つとしたとき、Aさんの「きらきら星」とも比べながら、Bさんの「きらきら星」からいくつの★が聴こえたかを考えながら聞かせることにより、曲の感じをつかむことができるようにする。</li> </ul>
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○このような曲のつくられ方、つくり方を「変奏」ということを理解する。このつくり方でできた変奏の曲を「変奏曲」ということを知る。</li> <li>○曲名と作曲者を知る。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>変奏はテーマに装飾してできている。変奏のとき、テーマは聴こえなくても、テーマが装飾によって隠れていることを確認する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「変奏」と「変奏曲」について説明する。</li> <li>○曲名と作曲者、この曲は12変奏までであることを説明する。</li> </ul>

実践事例2

第6学年の実践

- 1 題材名「日本の音楽っていいね」（全4単位時間）
- 2 指導する事項

〔第5学年及び第6学年〕 内容 B鑑賞(1)

- ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。
- イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。
- ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

〔共通事項〕

- ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。
- (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素



(イ) 反復，問いと答え，変化，音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み

3 題材の目標

- 箏の音楽を通して，日本の音楽を味わう。
- 様々な音の変化を聴き取り，音楽を形づくっている要素の働きを感じ取り，鑑賞の能力を高める。

4 題材設定の理由

楽曲のよさに気付いたり味わったりするためには，〔共通事項〕で示されている音楽を形づくっている要素に着目した学習が重要となる。「本題材のねらい」は，箏の音色や音の変化などを焦点化し，それらの音の重なりによる響きを味わって聴くことを通して，児童が日本の音楽のよさに気づき，それらを味わって聴くことができることである。

5 教材及び教材選択の理由

(1) 教材

「さくら」「六段の調」「虹色の風」

(2) 教材選択の理由

日本の音楽の面白さ，箏の音色の美しさに触れることのできる曲を選択した。



Point 2

表2 授業実践の指導計画（第6学年）

	主な学習活動	教師の働きかけ
第1時	<p>第一次 箏の音楽を通して，日本の音楽のよさや面白さを感じ取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の楽器による音を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 童歌を聴く。</li> </ul> </li> <li>○ ギターの演奏「禁じられた遊び」を聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の楽器「箏」の演奏により，気付いたこと，感じ取ったことを発表できるようにする。</li> <li>○ ギターと箏との音色の違いから，日本の音楽のよさに気付くことができるようにする。</li> <li>○ 箏の音色と奏法の特徴について，そのかわりを想像することで，奏法に興味を持てるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柱を立てない箏を提示し，音を出す方法を考えさせる。</li> </ul> </li> <li>○ 児童が感じ取ったことを発表させ，その理由を整理する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏による「さくら」の演奏を聴き，箏の奏法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音を出す方法を知る。</li> </ul> </li> </ul>	
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 視聴し気付いたことを話し合い，音色や音の特徴をまとめる。</li> <li>○ 「さくら」全体を聴く。</li> </ul>	
第1時	<p>第二次 日本の伝統的な楽器である箏の音色や箏の音楽の響きを味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ゲストティーチャーの生演奏を聴いて，和楽器の美しい音色や響きを味わう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 箏の特徴的な旋律の美しさや楽器の音色を味わいながら「さくら」を聴く。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏の歴史的な背景を知らせ，生演奏で聴かせることにより，曲全体の雰囲気や音色や響きの特徴を味わうことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に「さくら」を歌い，日本の音楽の特徴を感じ取ることができるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ 箏に触れることで，児童の身近な楽器となるよう配慮する。</li> <li>○ 様々な演奏を比較聴取できるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏を実際に体験し，感じたことや気付いたことを発表する。</li> <li>○ 箏の演奏を試聴する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演奏から構成の面白さを感じ取る。</li> </ul> </li> </ul>	

表3 学習指導案（本時案）

	主な学習活動と内容	教師の働きかけ
味わう	<p>第二次 日本の伝統的な楽器である箏の音色や箏の音楽の響きを味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞会を行い「さくら」「六段の調」「虹色の風」の演奏に親しむ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲストティーチャーの生演奏を聴いて，和楽器の美しい響きを味わう（図3）。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ゲストティーチャーの演奏を聴くことで，日本の伝統的な音楽や箏の響きの美しさを味わうことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽を形づくっている要素である音色，リズム，速度，強弱に着目できるようにする。</li> </ul> </li> </ul>



図3 鑑賞する児童

○思ったことや感じたことを発表する。



○音楽のよさや面白さを味わいながら箏に触れる(図4)。

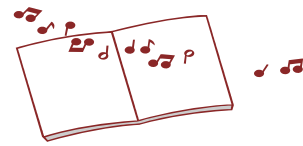


図4 演奏する児童

Point 2

様々な演奏形態から、[共通事項]を手がかりに音楽を比較聴取できるようにする。

- 鑑賞した演奏を参考に、要素がどのように変化しているか、その効果はどうかについて知らせる。
- 即興的に表現する楽しさを味わうことができるようにする。



3

成果と課題

1 本時の授業の様子

実践事例 1

「星」という具体物を利用したことで、ほぼ全員の児童が曲の構成をとらえることができました。「星の数を考えてはる」という活動の意味を、児童がはっきりととらえていたので、どの児童もグループ活動に参加でき、試行錯誤しながら学習の目当てに迫ることができました。「星をはる」というグループ活動で互いの考えを出し合い、話し合うことにより、「聴く」というどちらかといえば受動的な活動を、能動的な活動に転換できたことが成果です。

実践事例 2

ゲストティーチャーの演奏を目の前で鑑賞することで、日本の音楽の美しさやよさ、箏独特の響きを体で感じ取る児童の姿が見られました。児童の感想に「日本にはこんなすばらしい音を出す楽器があったのですね」「日本にこんないい楽器があってよかった」「滑らかなクラシックもいいけど、箏の滑らかさはまた違う」とあるように、日本の音楽に関心を持ち、その特徴や響きの美しさ、音楽のよさを感じ取る力を育てることができました。

2 実践を終えて

どちらの実践事例においても、[共通事項]に示された楽曲を形づくっている要素や仕組みを聴き取ったり、話し合ったりして、楽曲の持つよさや美しさ、面白さを感じ取るとともに、感じ取る心を育てることにつながりました。児童に身に付けたい能力を明確にし、価値ある音楽活動を展開していくことが大切であることを感じました。

実践者からのコメント

鑑賞の活動では、児童が音楽との新鮮なかかわりを大切にしながら、音楽を聴いて感動する体験を積み重ね、曲想を感じ取って聴いたり、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いたり、楽曲の特徴や音楽のよさを理解して聴いたりする力を身に付けられるようにしたいものです。[共通事項]との関連を十分に図り、楽しい鑑賞の活動を進めることが大切です。

## 3 これからの方向性

教師は活動を通して、児童にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にする必要があります。技能習得のため訓練的な活動に陥ったり、教師の指示するままの機械的な表現活動をさせたりするのではなく、児童の表現したい気持ちや意欲を引き出し、児童が音や音楽を聴き取り、音楽のよさや美しさを感じ取って、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりすることのできる活動を組み立てることが大切です。

音楽のよさや美しさ、面白さを感じ取る段階では、〔共通事項〕との関連を十分に図った活動を進めることが求められます。児童に表現及び鑑賞の各活動に示された指導事項を身に付けさせるためには、〔共通事項〕を各活動と常に関連させて指導することが大切です。今後は、〔共通事項〕と各活動の内容を関連させた題材を構成し、指導計画を立てる必要があります。

指導計画を立てる際に大切にしたい各活動におけるポイントを次に示します。

### 歌唱・器楽

#### 児童の思いや意図の実現

思いや意図を持つためには、音楽を聴いて、音楽のよさや美しさを児童が自分なりに感じ取り、それを言葉で表現したり、音楽で伝え合ったりすることが大切です。そうすることで自分の表現したいイメージが明らかになります。そのとき児童は、表現する意欲が高まり「このように音楽を表現してみたい」という自分の思いや意図を持ちます。教師は、児童の思いや意図を実現させるために、自ら考え、判断し、試行錯誤しながら主体的な表現活動を進めることができるようにしましょう。また、アンサンブルや合唱、合奏などの活動では、児童一人一人に自分の役割を持たせ、互いの声や音を聴き合わせ、みんなで協力して心を合わせて表現する喜びを味わえる活動を進めていくことが大切です。

### 音楽づくり

#### 音を音楽に構成していく過程の重視

音楽づくりでは、〔共通事項〕をより所として、今まで以上に歌唱、器楽、鑑賞の活動との関連を図った音楽づくりの活動が求められます。児童が様々な発想を持って音遊びをしたり即興的に表現したりする活動や音を音楽に構成していく過程を大切にして、思いや意図を持って音楽をつくる活動を進めていくことが大切です。

### 鑑賞

#### 能動的で創造的な鑑賞活動の展開

音楽のよさや美しさについて、例えば、その音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなどを手がかりに、言葉で表すなどして、能動的で創造的な鑑賞活動が展開できるようにすることが大切です。

曲想や音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いたり、楽曲の特徴や演奏のよさや美しさを理解して聴いたりする力を身に付けるように、〔共通事項〕との関連を十分に図ることが大切です。

### ○〔共通事項〕を位置付けた活動を組み立てる

教師は活動を通して、児童にどのような力を身に付けさせたいのか明確にする必要があります。技能習得のため訓練的な活動に陥ったり、教師の指示するままの機械的な表現活動をさせたりするのではなく、児童の表現したい気持ちや意欲を引き出し、児童が音や音楽を聴き取り、音楽のよさや美しさを感じ取って、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすることのできる活動を組み立てることが大切です。

また、児童に表現及び鑑賞の各活動に示された指導事項を身に付けるようにするためには、〔共通事項〕は表現及び鑑賞の各活動と常に関連させて指導することが大切です。〔共通事項〕と各活動の内容を関連させた題材を構成しましょう。

### ○児童の思いや意図を実現させる

思いや意図をもつためには、音楽を聴いて、音楽のよさや美しさを児童が自分なりに感じ取り、それを言葉で表現したり、音楽で伝え合ったりすることで自分の表現したいイメージが明かになります。そのとき児童は、表現する意欲が高まり「このように音楽を表現してみたい」という自分の思いや意図を持ちます。教師は、児童の思いや意図を実現させるために、自ら考え、判断し、思考錯誤しながら主体的な表現活動を進めることができるようにしましょう。また、アンサンブルや合唱、合奏などの活動では、児童一人一人に自分の役割を持たせ、お互いの声や音を聴き合わせ、みんなで協力して心を合わせて表現する喜びを味わえる活動を進めていくことが大切です。

### ○能動的で創造的な鑑賞活動を展開する

音楽のよさや美しさについて、例えば、その音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなどを手がかりに、言葉で表すなどして、能動的で創造的な鑑賞活動が展開できるようにすることが大切です。



## 1

### 図画工作科授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成20年8月）では、改訂の要点として「育成する資質や能力の明確化と共通事項の新設」「鑑賞の指導の重視と言語活動の充実」「材料や用具の整理と多様な学習」などが挙げられています。小学校図画工作科の学習では、児童に「何をつくらせるか」を考えるのではなく、その題材を通して「何を育てるか」という意識で指導し、育成する資質や能力が十分働くような授業づくりが求められています。

そこで、これからの小学校図画工作科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

#### Point 1

#### 〔共通事項〕を押さえた表現や鑑賞の学習指導計画づくり

表現及び鑑賞の活動において、共通に必要な資質や能力が〔共通事項〕としてまとめられました。具体的には、自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえたり、それを基に自分のイメージを持ったりすることです。

この〔共通事項〕が十分指導されるよう、2学年間の学習の見通しを持って学習指導計画を作成する必要があります。そのために、これまでの表現や鑑賞の活動を〔共通事項〕の視点で見直し、指導内容や方法、指導上の配慮事項等考えることが重要になります。

また、一つの題材の評価規準を考える際に、形や色、イメージなど〔共通事項〕の視点からみて、具体的な学習内容や学習活動を明らかにしていくことが大切です。

さらに、教師の指導や評価の言葉にも〔共通事項〕の文言が使われていくとよいでしょう。

#### Point 2

#### 発想・構想、創造的な技能など育成する能力を明確にした授業づくり

「A表現」では、題材を通して育成したい資質や能力を明確にした授業づくりが大切です。

具体的には、形や色、イメージなどを基に想像をふくらませたり、表したいことを考えたり、計画を立てたりするなどの「発想や構想の能力」と、材料や用具を用いて自分の思いを具体的に表現したり、表現方法をつくりだしたりするなどの「創造的な技能」を培います。

そのためには、「児童が思いついた(発想した)ことをすぐに試すことができる」「かき直したりつくり直したりする幅のある活動ができる」「児童が自分で表したいことを決め、形や色、材料や用具を選び、自分で判断しながらつくり・つくり変え・つくり続けることができる多様な学習過程を備えている」などの学習活動の工夫が大切です。

#### Point 3

#### 対象のよさや美しさを話す、聞く、話し合うなどの鑑賞の授業づくり

「B鑑賞」は、児童が自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見たり、それについて話したりする鑑賞活動を通して、対象のよさや美しさなどを感じ取る「鑑賞の能力」を高める活動です。

そのためには、鑑賞する喜びを十分味わわせるとともに、「話したり、聞いたりする」「話し合ったりする」などの言語活動を、つくり始めから終わりまでの幅広い表現活動や単独の鑑賞活動に位置付け、児童の見方や考え方を深めていくような授業づくりが大切です。



## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

- ◆題材名「ぼく・わたしだけの〇〇トロフィー」  
第4学年 A表現(2)ア, イ, ウ B鑑賞ア, イ  
〔共通事項〕(1)ア, イ

### 1

## 実践のねらい

図画工作科の授業では、児童が楽しそうに活動している様子にとらわれて、その活動を通してどのような資質や能力が培われているかという図画工作科本来のねらいを忘れてしまいがちです。そこで、本題材「ぼく・わたしだけの〇〇トロフィー」(図1)では、表現や鑑賞の学習活動において、児童が形や色、材料などからどのような感じをとらえているのかを見守りながら、〔共通事項〕を意識してねらいを確かめたり指導を工夫したりできるような授業実践を目指しました。 **Point 1**



図1 児童の作品

本実践では、題材を通して育成したい資質や能力を「発想や構想の能力」と「創造的な技能」、「鑑賞の能力」の観点で具体的に明らかにした上で学習活動の工夫を行っています。例えば、自分で判断しながらつくり・つくり変え・つくり続けることができる力を育成するために、児童が思いついたことをすぐに試すことができる材料コーナーを充実したり、児童が自分で表したいことを決め、形や色、材料、用具を選ぶことができる多様な学習過程にしたりするなどの工夫を行っています。 **Point 2**

さらに、製作の途中で作品づくりを自由に見合う時間を設定し、形や色の組合せのよさに気付くようにしたり、まとめの相互鑑賞の時間に自分たちの作品について感じたことや思ったことを話し合ったりして、児童の見方や考え方を深めていくよう工夫しました。 **Point 3**

### 2

## 学習指導の実際

### 1 題材の目標

〔共通事項〕と学習目標との関係が分かるように、4観点の中に〔共通事項〕ア, イの指導事項をゴシック体などで示しています。 **Point 1**

- ・表したい感じが出るように、形や色、材料の組合せを考えながら立体に表すことを楽しもうとする。(造形への関心・意欲・態度)
- ・表したい感じが出るように、想像をふくらませて、形や色、材料の組合せを試しながら自分らしい発想をする。(発想や構想の能力)
- ・表したい感じが出るように、造形感覚を働かせて、材料の特性を考えながら表し方を工夫する。(創造的な技能)
- ・自分たちの作品について感じたことや思ったことを話し合い、作品のよさやいろいろな表し方を感じ取る。(鑑賞の能力)

〔共通事項〕(第3学年及び第4学年)

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。  
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

## 2 指導計画（全6単位時間）

指導計画に〔共通事項〕を具体的な言葉で位置付け、明記しておきましょう。

Point 1

	学習活動	指導上の留意点
導入 0.5 時間	1 学習の目当てを持つ。 具体物や写真，映像などを使って，これからの学習活動に思いを持って取り組めるよう導入を工夫しています。	・トロフィーの持つ役割について考えさせたり，実際のトロフィーを見せたりすることによって，「ぼく・わたしだけの〇〇トロフィーづくり」に興味を持つことができるようにする。 発想や構想の段階で様々な材料に触れ，自分の思いを大切にするための試行錯誤ができる環境を作りました。
展開 5 時間	2 表したい感じが出るように，感性を働かせ， <b>形や色，材料の組合せを試しながら工夫して表す。</b> 学習活動にも〔共通事項〕を具体的な言葉で位置付け，フォントや書体を変えるなどして明記しておきます。	・形や色，材料の組合せを試したり，造形感覚を働かせて， <b>材料の特性を考えながら</b> 表し方を工夫したりできるように，材料コーナーを設ける。 ・材料コーナーで試すことを促し，自分らしい発想で工夫できるように活動の様子を称揚する。 ・必要に応じて簡単な構想図を書いてもよいことを伝える。 ・途中で作品づくりを自由に見合う時間を設定し，形や色の組合せのよさに気付くようにする。 終末の相互鑑賞の場面だけでなく，発想や構想の段階でも児童の様子を見て言語活動を伴った鑑賞を入れています。
まとめ 0.5 時間	3 自分たちの作品について感じたことや思ったことを話し合う。	・ <b>形や色，材料やそれらの組合せ，全体のイメージなどの視点で話し合わせる。</b> 〔共通事項〕を意識した相互鑑賞になるように話し合いの視点を与えます。 ・感想が出しやすいように，4名程度の小グループで行う。

## 3 用具や材料

- ・教師 用具・・・発泡スチロール用接着剤，カッター，段ボールカッター，液体塗料など  
材料・・・インスタント麺めんの容器（複数種類），ロール芯しん，発泡ポリエチレン製のポール，カラーモール，紙粘土など
- ・児童 用具・・・はさみ  
材料・・・インスタント麺やプリンなどの容器，ロール芯，ビーズやスパンコールなどのきらきらする材料など，自分の表したい感じが出るような身近な材料

#### 4 授業実践における児童の活動の様子

##### (1) 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえる児童の姿

Point 1

材料コーナーを目の前にしてあれこれと想像を巡らしていた児童は、形や色、材料の組合せを考えながら様々な活動を始めました。

透明のプリンカップを手に何かを考えていたA児は、薄くて透過性のあるオレンジ色の不織布を見付けると、はさみで切ってカップに入れ、日光にかざして薄いオレンジ色の感じを確かめ、「よし、きれい!」と声を上げました(図2)。透明のカップとオレンジ色の不織布を組み合わせることで新たにきれいな感じをつくり出した瞬間です。

黄色のカラーモールを手にして見つめていたB児は、よりカラフルな感じを出すためオレンジ色のカラーモールとセットにしてよじり出しました。さらに、赤・青・緑など7色のポリエステル製の球のモールを自分の感覚を働かせて接着剤を使って取り付けていきました。次に、インスタント麺の容器を液体塗料でピンク色に塗り穴を空けてペットボトルを差し込んだ後、先ほどのカラーモールを斜めに巻き、さらに、透明のペットボトルの中に金色できらきらのPET製モールを全体に詰めていきました(図3)。

おしゃれな感じを出したいと考えていたC児は、アルミ線を使ってインスタント麺の容器に刺し、容器の裏側で止めました。2本のアルミ線を交差するように配置すると、金・銀・青・緑の4色のモールを探し出し、らせん状にしながら自分の感覚に合うようにバランスを考えながら飾り付けていきました(図4)。

このように、児童は、自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せの感じをとらえていきました。一人一人の児童が、つくりたい感じや材料などから発想し、それぞれの感性を働かせて自分の思いに近づくように工夫してつくり出していきました。

##### (2) 発想や構想の能力と創造的な技能を發揮する児童の姿

Point 2

児童は、自分が表したい感じが出るように、形や色、イメージを基に想像をふくらませ、様々に試しながら表し方を工夫していきました。

豪華な感じを出したいと考えていたD児は、牛乳パックに金色に着色したプリンカップを取り付けた後、材料コーナーでじっくり考えていましたが、赤・金・青色に光るポリエステル製モールを見付けると、牛乳パックにきりでいくつもの穴を空けて、そこにモールを刺して取り付けていきました。さらに、胴を銀色に着色し、上と下の部分に金色で着色したインスタント麺の容器やおしゃれなボタンを取り付けた後、しばらく考えていましたが、金色できらきらのPET製モールを1本1本丁寧にはり付けていきました。その後それらのモールをはさみで長さを切りそろえていきました(図5)。

万華鏡のような美しさの感じを出したいと考えていたE児は、ペ



図2 製作の様子(A児)



図3 製作の様子(B児)



図4 製作の様子(C児)



図5 製作の様子(D児)

ットボトルに黄色に着色したネット緩衝材をすっぽりとはめ、球のモールを取り付けた青色のひもを斜めに巻いた後、上の部分に球のビーズをいくつもつなげてリングにして取り付けました。さらにインスタント麺の容器にふたを取り付け、星や葉など様々な形や色の樹脂製スパンコールを入れました。上からのぞいて回転させると多くのスパンコールが万華鏡のように見えるという仕組みにしたのでした（図6）。



図6 製作の様子（E児）

F児は「おかしトロフィー」に取り組みました。お菓子の空き箱の上にクッキーやチョコレートなど様々なお菓子を作って配置し、発泡ポリエチレン製ポールを切って柱にしてカラーモールで柱が倒れないように補強しつつ、準備してきたビーズや棒状モールと球モールなどを使って飾っていきました。一番上にはお気に入りの3段ケーキも載せていきました（図7）。



図7 製作の様子（F児）

このように、児童は、思いついたことをすぐに試したり、材料を基に感性を働かせて自分で判断しながらつくり・つくり変え・つくり続けたりすることができました。

### (3) 話したり聞いたりすることを通して対象のよさを感じ取る児童の姿

Point 3

途中で他の児童の作品づくりを自由に見合う時間を設定したり、児童が自分なりに一定の区切りを迎えたりすると、相互に鑑賞活動が行われ、児童が感じたことが自然に言葉に表れます。

まとめの段階での鑑賞活動では、「おしゃれな感じにするために、このモールをくるくるしているところ、ここがいいね」「この色とこの色の組合せがきれい」「おしゃれな感じが出ている」などと話したり聞いたりして、作品のよさを感じ取っていました。

すごい！この色とこの色の組合せがきれい！



## 3 成果と課題

児童は、「ぼく・わたしだけの〇〇トロフィー」の製作の過程で、自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえ、発想の能力や創造的な技能を発揮しました。また、表現の過程で話したり聞いたりする活動を通して、対象のよさを感じ取ることができました。

授業後、本題材の学習の感想を尋ねたところ、全員が「とても楽しかった」と回答し、満足度調査でも全員が「100%以上」と回答しました。また、製作の様子から、これまででない発想をしたり、自分らしい表現を最後まで追究したりする姿が見られました。本題材での学習が、身に付けさせたい資質や能力の点で、児童にとって価値あるものだったと考えられます。

### 実践者からのコメント

指導に当たっては、まず、トロフィーの製作の目的意識を持たせ、形や色などの具体的なイメージを持たせられるようにすることが重要です。そして、児童がこれらのイメージを基にスムーズに学習が展開されるように、いろいろな形の空き容器やロール芯、接着剤などの材料や用具を準備し、自分の思いに合った構成や組み立てができる環境を整え、いろいろな装飾の材料で試行錯誤しながら飾り付けられる時間を保障することが大切です。

### 3

## これからの方向性

図画工作科の授業づくりにおいて大切にしたい内容を、実践事例を基に「共通事項」「発想や構想の能力と創造的な技能」「鑑賞における言語活動」の三つの視点からまとめてきました。ここでは、これからの小学校図画工作科の授業において、課題となるポイントを次に示します。

### 指導計画

#### 児童の資質や能力が十分に発揮できる指導計画の作成

「A表現」の(1)「材料などをもとに造形遊びをする」は、思いつくままに試みるなどの遊びの特性を生かしたものであり、(2)「表したいことを絵や立体、工作に表す」は、テーマや目的、用途や機能などに沿って自分の表現を追究していく性質があります。

いずれの場合も、学習活動全般にわたって表現と鑑賞を有機的に関連付け、学習が進むにつれて児童の「造形への関心・意欲・態度」が高まり、〔共通事項〕や「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」が十分に発揮できるような指導計画にしていくことが大切です。現在扱っている題材をこれらの視点から見直し、児童にとって価値ある題材となるよう検討し、児童の資質や能力が十分に発揮できるような指導計画を作成する必要があります。

### 材料・用具

#### 材料や用具の十分な経験

今回、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に、示されている材料や用具（表1）に、児童が十分に慣れることができるようにすることが大切です。指導に当たっては、材料や用具を使ったり生かしたりする経験を重ねながら、児童が材料や用具の適切な扱いに慣れるようにする必要があります。具体的には、材料や用具の経験が十分にできるような時数が設定されているか、用具を使いながら創造的な技能が発揮できるような学習過程になっているか、6年間を通して材料や用具をもれなく取り扱っているかなどを検討することが大切です。既存の題材を手がかりに、児童の持てる力が自在に働くように表現方法や材料・用具をつくり直すなどして、価値ある題材を設定していくことが重要です。

表1 材料・用具と取扱い

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
材料	土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、	木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使い	針金、糸のこぎりなど
用具	やはさみ、のり、筒単な小刀類など身近で扱いやすいもの	やすいのこぎり、金づちなど	
取扱い	十分に慣れることができる	適切に扱うことができる	表現方法に応じて活用できる

### 中学校へ接続

#### 中学校技術分野への接続を配慮した年間指導計画の作成

特に、工作に表す内容については、図8のように小学校図画工作科が中学校技術・家庭科の技術分野と関連する教科であることに十分配慮し、工作に表す内容に適切な時数を配分することなどについて年間指導計画の見直しを行うことが大切です。

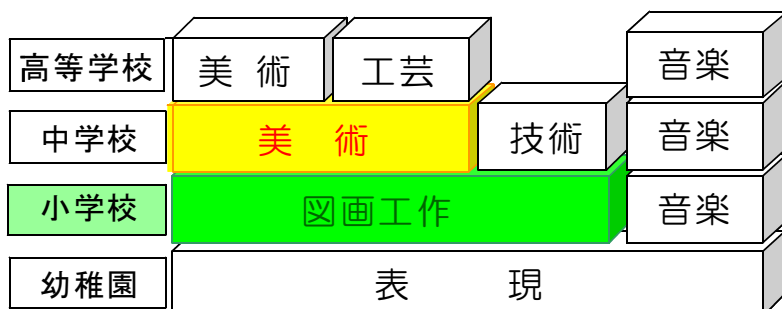


図8 図画工作科と美術科等との関連



## 1 家庭科授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説家庭編（平成20年8月）では、改訂の要点として、内容について「内容構成の改善」「ガイダンス的な内容の設定」「家族・家庭に関する教育の充実」「食生活に関する内容の充実」「主体的に生きる消費者をはぐくむ視点の重視」「言語活動の充実」の6点が挙げられています。特に、「内容構成の改善」は、本教科における今回の改訂の特徴となっており、「中学校技術・家庭科の内容との体系化を図る」と示されています。このことは、小学校家庭科の授業づくりの根幹にもかかわるもので、多くの実践上の課題が想定されます。

そこで、これからの小学校家庭科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 2 学年間を見通したストーリー性のある指導計画の作成

指導を効果的に行い、児童の意欲的な学びを促すためには、教師が教科の目標を踏まえて、題材を効果的に配列し、2学年間を見通したストーリー性のある指導計画を作成することが大切です。そのためには、目指す児童の姿に近付けるための目標や指導の道筋を明確にし、それらに沿って題材をつなぎ、積み上げることが重要です。題材の構成に当たっては、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮することが重要です。

例えば、A(1)「自分の成長と家族」については、第4学年までの様々な学習や生活の経験を踏まえ、2学年間の学習の見通しを持つためのガイダンスとして取り扱い、第5学年の最初に履修させるようにします。さらに、この項目を2学年間の学習全体を貫く視点として各内容と関連させて取り扱うことも大切なポイントとなります。

また、B(3)「調理の基礎」や、C(3)「生活に役立つ物の製作」については、学習の効果を高めるため、2学年にわたって取り扱い、平易なものから段階的に学習できるように計画します。

### Point 2

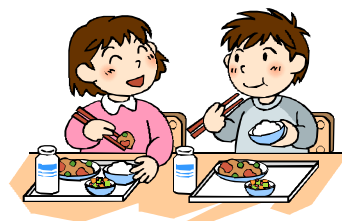
#### 児童の主体的な学習活動を促す題材構成の工夫

児童の家庭生活の在り方、生活経験の有無などにより、児童の生活に対する興味・関心、学習意欲、思考の仕方、身に付いている知識や技能などは様々です。一人一人の児童が自分を生かすことができるように、題材構成や使用する教材を個に応じた工夫したり、問題解決的な学習により個に応じた課題を選択し追究させたりするなど、弾力的な学習ができるようにします。

### Point 3

#### 日常生活のかかわりと地域社会とのつながりの重視

家庭生活が近隣の人々や環境とのかかわりの中にあることにも気付かせるためには、家庭や地域社会における実践に結び付けることができるような題材を設定することも重要です。また、他教科・領域との関連や、栄養教諭、学校栄養職員とのティームティーチング、ゲストティーチャーとの連携も効果的でしょう。



## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆題材名 「野菜のひみつを知ろう，調理にもチャレンジ！」（第5学年）

Point 2

Point 3

を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

食育については，平成17年に食育基本法が成立し，「食に関する知識と食を選択する力を習得し，健全な食生活を実践することができる人間を育てる」ことが求められています。平成20年3月告示の小学校学習指導要領の第一章総則の教育課程編成の一般方針に，食育に果たす家庭科の役割が明記されました。

これを受け，小学校家庭科では，「食事の役割」「栄養を考えた食事」「調理の基礎」の三つの項目について指導することが求められています。本実践事例では，第5学年の野菜の調理の学習を中心に，児童の食品としての野菜に対する意識の変容を支援する学習指導の工夫を探りました（図1）。

児童の野菜摂取不足が指摘される中，野菜をバランスよく食べようとする態度を育成し，日常の食事の改善を図ることが求められています。そこで，野菜の食品としてのよさや食べることの大切さに気づき，野菜に対する意識が変容するよう，指導計画を作成しました（表1）。特に，野菜の味の付け方や調理方法による野菜の味の変化をとらえる活動を位置付け，食事の材料としての野菜に対する理解を深め，野菜を取り入れた食事への関心を高めるよう工夫しました。

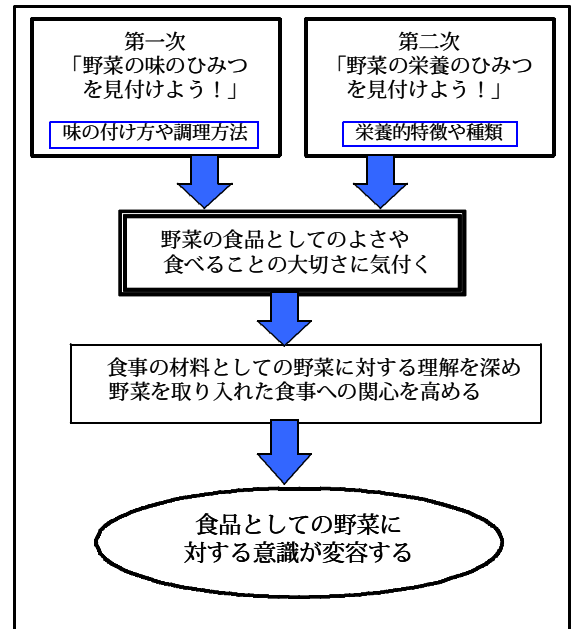


図1 題材の構想図

表1 題材の指導計画

指導計画		中心となる活動内容	手だての工夫
第 一 次 「 野菜 の 味 の ひ みつ を 見 付 け よ う !」	第1時 「野菜の調理の計画を立てよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の調理について話し合う活動</li> <li>野菜の調理に関心を持つ活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理する意欲につながるように，それぞれの児童が調理経験をしっかりと話し合えるようにする。 <b>Point 2</b></li> <li>野菜料理に関心を持てるように，野菜料理，特に野菜サラダの写真を多く提示する。</li> </ul>
	第2時 「調理をするときには気を付けよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理をするときに気を付けることを確認する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が安全や衛生について，調理の手順に沿って確認できるように，絵を使って提示する。</li> </ul>
	第3時 「ゆで野菜サラダの調理をしよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>味の付け方による野菜の味の変化をとらえる活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3種類のサラダソースで，ゆで野菜4種類の味比べをし，それぞれの児童が野菜の味の変化をとらえることができるようにする。（味比べカード） <b>Point 2</b></li> </ul>
	第4時 「野菜のいろいろな味の付け方や調理方法を知ろう」[本時]	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理方法による野菜の味の変化をとらえる活動</li> <li>野菜の調理方法を知り，</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できたての野菜いためと野菜スープを試食し，ゆで野菜サラダとの違いや，それぞれの調理方法のよさに気付くことができるようにする。 <b>Point 2</b></li> <li>学校栄養職員が実際に野菜いためを調理するのを見たり，</li> </ul>

		関心を高める活動	学校栄養職員から野菜いためと野菜スープの作り方のこつを聞いたりすることで調理方法について関心を高め、今後の調理に生かすことができるようにする。 <b>Point 3</b>
第二次 「野菜の栄養のひみつを見付けよう！」	第1時 「野菜の栄養や種類について知ろう」	・野菜の栄養的特徴や種類について知る活動	・野菜を色の濃い野菜と色の薄い野菜に分類することを通して、栄養的特徴について理解し、野菜の種類の多さを知るとともに、野菜を食べることの大切さに気付いたり、野菜の選択肢を増やしたりできるようにする。 (野菜を知ろうカード)
	(課外) 「給食献立について調べよう」	・野菜の栄養や種類を知り、野菜料理を考える活動	・自分で野菜料理を考えることで、野菜の栄養的特徴への理解が定着できるようにする。 <b>Point 2</b>
	第2時 「おすすめ野菜料理を考えよう」	・給食献立の野菜について調べる活動	・給食献立の野菜について調べることを通して、野菜の栄養的特徴や種類の多さを確認し、野菜料理の栄養バランスのよさに気付くことができるようにする。 (給食献立を調べようカード) <b>Point 2</b> <b>Point 3</b>
	第3・4時 「おすすめ野菜料理を作ろう」	・栄養バランスのとれたおいしい野菜料理を考える活動 ・グループで考えた野菜料理を作る活動	・栄養バランスを考えて調理する野菜の組み合わせや食品を選び、調理方法を工夫した、おすすめ野菜料理を考えることができるようにする。 <b>Point 2</b> ・自分たちで考えた野菜料理を作ることで、家庭での実践意欲につながるようにする。 <b>Point 3</b>

## 2

## 学習指導の実際

### 1 授業展開例

授業展開例として、表1の指導計画における第一次第4時の学習指導案(本時案)を表2に示します。

表2 学習指導案

本時案(第一次第4時)		
学習目標	○野菜の味を進んで比べようとしている。 ○同じ野菜でも調理方法によって食感や味が変わることを知り、今後の調理や家庭での実践に生かそうとしている。	
学習活動	教師の支援	
	【T1:学級担任】	【T2:学校栄養職員】
1 本時の学習目標をつかむ。	○前時に自分たちが調理したゆで野菜サラダの味の付け方を比べたり、サラダと同じ材料を使った調理方法の異なる料理を試食したりすることを知らせる。	[関心・意欲・態度] [知識・理解]
野菜のいろいろな味の付け方や調理方法を知ろう		
2 ゆで野菜をいろいろな味付けで試食し、感想を話し合う。	○まず始めに、味を付けずに野菜そのものの味を比べさせる。 ○3種類のサラダソース	○児童が作ったフレンチソース以外のソースを準備する。



\*ゆで野菜サラダの材料

- ・キャベツ
- ・パプリカ
- ・ニンジン
- ・グリーンアスパラガス

(フレンチソース、和風ソース、オーロラソース)で味を付けたものを比べさせる(図2)。

- 自分の好みに合う味を考えながら試食させ、試食後、味比べカードに気が付いたことや思ったことを記入させる。



図2 野菜の盛り付けとソース

児童がゆで野菜を試食し、ソースの違いによる味を比べるなどの体験的な活動を通して、調理への関心を高め、調理のよさを実感できるようにします。

Point 2

- 野菜の味を進んで比べようとしている。  
[関心・意欲・態度]  
(観察, 味比べカード)

3 野菜いためと野菜スープを試食し、味の変化を話し合う。

- ゆで野菜サラダと同じ材料で作った野菜スープと野菜いためを試食することを知らせる。
- 同じ材料でも調理方法によって味や食感が変化することに気付かせる。

- 野菜いためは、実際にいためるところが観察できるようにする。
- 温かいスープが試食できるようにする。

4 学校栄養職員【T2】の話を聞く。

- ・野菜いためと野菜スープをおいしく作る秘密
- ・給食での調理の秘密

- 学校栄養職員から、野菜料理をおいしく作るための工夫を聞くことを伝える。

食の専門家である栄養士から調理の仕方のかつを学ぶことで、関心を高めます。

Point 3

- 野菜いためは材料の形や大きさをそろえて切るが、大きな物や固い物は火が通りにくいので、先にいためるとよいこと、また、野菜を弱火でいためると水っぽくなるので、強火で焦がさないように手早くいためる方がよいことを知らせる。
- 野菜スープは、野菜のおいしさをスープの中に出すために、できるだけ細く切ってから入れているということを知らせる。
- 給食でおいしく作るための工夫も、児童がイメージしやすいように具体例を挙げて示す。

- 野菜いためも野菜スープも、温かいうちにおいしく食べることもおいしさの秘密であるということに気付かせる。

5 本時の学習のまとめをして、次時の予告を聞く。

- 「同じ材料でも、調理方法や味の付け方によって様々な味に変化する」「野菜は、簡単に調理できそうだ」「自分の好みの味の付け方ができそうだ」など、家庭での実践につながるようなまとめにする。
- 次時は、野菜の種類と栄養について学習することを知らせる。

児童が野菜の味の変化や調理方法の工夫を知り、今後の調理や家庭での実践につながるようにします。

Point 3

- 同じ野菜調理よ感変方法に食が変味化すことを知り、今後の調理や家庭実践での生かそうとしている。  
[知識・理解]  
(ワークシート)

## 3

## 成果と課題

## 1 本時の授業の様子

本時では、展開の工夫として三つの活動を位置付けました（表1 第一次第4時）。

児童は、学校栄養職員が実際に野菜いためを調理する姿を見たり、野菜いためと野菜スープの簡単でおいしい作り方のコツを聞いたりすることで、野菜サラダ以外の調理方法について知り、関心を持つ様子が見られました。

ゆで野菜サラダの調理実習の後、家庭で野菜の調理をした児童52人の中で、ゆで野菜サラダ以外の調理方法に関心を持ち、野菜いためを作ったり野菜スープを作ったりした児童が22人いたことは、本時の活動が、自分で作りたい調理方法を選んで実践するという意欲にもつながったものと考えます。

授業実践前後のアンケート結果を比較すると、表3のようになり、野菜や野菜の調理への関心の高まりが見られました。これは、様々な味に変化するという野菜の食品としてのよさに気付いたことによるものと考えます。また、野菜サラダと野菜いためを作り、アンケート調査で、野菜料理が「少し嫌い」から「少し好き」に変化した児童の家庭実践カードには、「次は、野菜スープを作りたい」と野菜の違う食べ方や野菜の調理に関心を持った記述が見られました。

以上のことより、野菜の味の付け方や調理方法による味の変化をとらえる活動と、野菜の調理方法について関心を高める活動を意図的に位置付けた結果、児童は、食事の材料としての野菜に対する理解を深め、野菜を取り入れた食事への関心を高めることができたと考えます。

## 2 実践を終えて

野菜や野菜料理に対して強い抵抗感を持っている児童にとって、野菜に興味・関心を持つことは容易ではありません。しかし、野菜を食べることの大切さを理解したり、自分が食べることができる野菜や自分に合う調理方法、味の付け方を見付けたりしたことが、意識の変容につながっていくと考えます。野菜を食べることに苦手意識を持っていた児童には「調理方法や味の付け方を工夫するとおいしいから食べる」「野菜を食べることは大切だから自分でバランスを考えて食べる」というような、野菜に対する意識の変容を支援することができました。今後も、自分の食生活を見つめ直し、食の改善を考えた食生活を送ろうとする児童の育成を目指していきたいと思えます。

表3 野菜の調理についてのアンケート(64人中、複数回答)

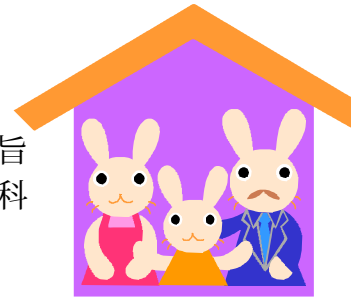
野菜や野菜の調理への関心	授業前	授業後
野菜の食べ方をもっと知りたい	18人	25人
野菜をもっと食べたい	14人	26人
野菜の調理の学習を楽しみにしている学習が楽しかった	33人	49人
野菜の食べ方を知りたくない	9人	4人
野菜を食べたくない	9人	4人
野菜の調理の学習に興味がない学習が楽しくなかった	6人	2人

## 実践者からのコメント

授業実践を通して、野菜の食品としてのよさや食べることの大切さに気付くことで「野菜をもっと食べよう」「野菜料理をもっと作ろう」と思う児童が増えました。今後も食生活を家庭生活の中で総合的にとらえるという家庭科の特質を生かし、家庭や地域との連携を図りながら健康で安全な食生活を実践するための基礎が培われるよう、食に関する指導の充実に取り組んでいきたいと考えています。

### ③ これからの方向性

各学校においては、新学習指導要領の要点について十分理解し、趣旨を生かした授業づくりが求められています。そこで、これからの家庭科の授業を考える上でのポイントを次に示します。



#### 円滑な接続

#### 中学校の内容を見通した効果的な指導

小学校では、中学校技術・家庭科の内容との系統性や連続性を図り、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する観点から、これまでの内容構成を改め、小・中学校ともに同様の枠組みを持つAからDの四つの内容に再構成されました。このことは中学校での内容を見通して、小学校の学習に求められる基礎的、基本的な知識及び技能や、生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度が着実にはぐくまれることを目指したものです。

#### ガイダンスの設定

#### 学習に見通しを持つためのガイダンスの設定

2学年間の学習の見通しを持たせるため、ガイダンス的な内容としてA(1)「自分の成長と家族」の項目を設定し、第5学年の最初に履修させることとしています。例えば、小学校入学ごろからの自分を振り返り、自分の回りでどのような衣食住の生活が営まれていたか、それらは自分の成長にどのようにかかわってきたかを考えたり、家庭生活の中で自分ができるようになったことを挙げ、それらは家族の理解に支えられてきたことに気付いたりするなどの学習が考えられます。また、2学年間で学習する内容に触れ、第4学年までの他教科の学習との関連を考えることや、これからの学習を通して、自分ができるようになりたいことや2年後の自分をイメージすることなども考えられます。その際、自分の目標や課題を見付け、見通しを持って意欲的に学習に取り組むことができるよう配慮します。

#### 言語活動の充実

#### 言語活動の充実による家庭科のねらいの定着

言語を豊かにし、知識や技能を活用して生活の課題を解決する能力をはぐくむために、衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮します。

家庭科で用いる生活に関連の深い様々な言葉を表4に挙げています。児童がこれらの言葉に触れ、製作や調理などの実習を行ったり、目的を持って学習対象を観察したり、触れたり、味わったりするなどの実践的、体験的な活動を行うことによって、様々な驚きや感動とともに一つ一つの言葉が児童自身の中で生きた言葉へと変化すると考えられます。

表4 小学校家庭科で用いる生活の中の言葉（キーワード）例

家庭生活・家族	団らん、触れ合い、家庭生活を支える、お茶のこさ、湯を注ぐ、つながり、生活環境、共に生きる など
日常の食事・調理	健康、身支度、栄養素、食品、バランス、火の通り、かさ、だし、すり切り、沸騰、ゆでる、いためる、流水、振り洗い、塩加減、配膳 など
衣服の手入れ・製作	手入れ、着方、もみ洗い、すすぐ、ほころび、布のみみ、布目、布はし、布を裁つ、しつけ、しごく、縫い合わせ など
住まい方	快適さ、通風、換気、採光、照明、はたく、はく など
消費生活・環境	表示、賞味期限、消費期限、品質表示、マーク、リサイクル、リフォーム、リユース、分別 など



## 1

### 体育科授業づくりのポイント

今回の学習指導要領の改訂の要点として、運動領域では「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を養う観点の重視」「運動の系統性を図ること」「体力の向上を重視し、『体づくり運動』の一層の充実を図ること」などが挙げられています。保健領域では「身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容の重視」「健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、系統性のある指導ができるよう健康に関する内容を明確にすること」が挙げられています。これらのことを踏まえ、児童が生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することができるよう、小学校体育科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容（運動領域）をポイントとして次に示します。

#### Point 1

#### 基礎的な身体能力をはぐくむための指導の工夫（体づくり運動）

今回の学習指導要領の改訂で、低・中学年においても「体づくり運動」が規定されました。運動を楽しく行うことが大前提であり、夢中になって運動に取り組む中で、動きを身に付けていくことができるような指導の工夫が必要となります。

低・中学年の導入（単元前半）においては、児童にとって分かりやすく、易しい場づくりを行うとともに、一つ一つの動きを確認しながら運動する時間を設けるなど、苦手な児童も楽しく取り組めるように工夫することが大切です。また、高学年では、自主的に体力づくりを実践していく力を育てる観点から自分の体力の状況を知り、自分に合った運動の仕方を選んだり、工夫したりする活動を重視することが大切です。

#### Point 2

#### 指導内容と学習の目当ての明確化

小学校学習指導要領解説体育編（平成20年8月）には、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を養う観点を重視し、各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする」とあります。運動の楽しさを味わうために必要な力をバランスよく身に付けさせるには、重要な要素となる「技能」とともに、「思考・判断」や「態度」についても、各運動領域の学習において指導すべき内容を明確化することが大切です。

また、学習カード等を活用して運動のポイントを具体的に示し、学習の目当てを明確につかませるとともに、一人一人が目当てに応じて活動の仕方（練習の場）を選んで取り組めるよう、学習活動（場づくり）を工夫することも大切です。

#### Point 3

#### 児童一人一人が自主的、自発的に意欲を持って学習に取り組むための工夫

児童自らが考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する、課題解決型の学習活動を取り入れることは、自主的、自発的に意欲を持って学習に取り組む授業の実現につながります。授業の中に、このような課題解決型の学習活動を、意図的、計画的に適切に設定することが大切です。

また、楽しさや喜びというそれぞれの運動が持っている特性を明らかにし、その特性に触れるような活動を重視することが、意欲的に学習に取り組むことができる授業へとつながります。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名「体づくり運動」(Gボールチャレンジ)

Point 1

Point 2

Point 3

を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

小学校学習指導要領解説体育編(平成20年8月)に、「低・中学年においては、発達の段階から体力を高めることを学習の直接の目的とすることは難しいが、将来の体力の向上につなげていくためには、この時期にさまざまな体の基本的な動きを培っておくことが重要である」と示されています。

この授業実践では、Point 1 の「基礎的な身体能力をはぐくむための指導の工夫(体づくり運動)」に示しているように、Gボールを取り入れることにより、児童にとって分かりやすく、易しい場づくりを設定し、一つ一つの運動の楽しさや面白さを味わいながら、基礎的な身体能力や技能を習得することを目指しました。「Gボールを使って、できそうな動きをやってみて、面白さを見付けよう」という目当てを持たせるところから始め、一人でできる動きや友達とできる動きを徐々に増やしていくという「Gボールチャレンジ」と名付けた一連の授業を試みました。Point 2 Gボールの上でバランスをとったり、弾んだり、転がったりするなど、様々な動きを体験する中で面白さをとらえ、一人でできる動きを増やしたり、友達とできる動きを増やしたりすることの楽しさを感じながら運動に取り組むことにより、Point 3 の「児童一人一人が自主的、自発的に意欲を持って学習に取り組むための工夫」を目指した授業づくりができるのではないかと思います。

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 単元の目標



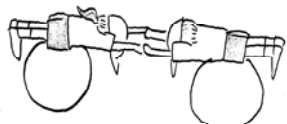

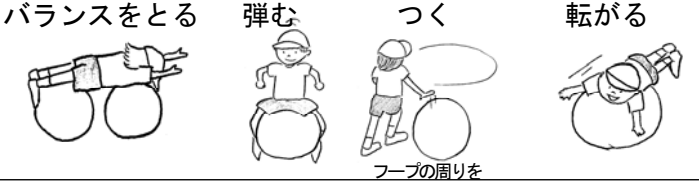
単元の目標を次のように設定しました。

- Gボールに乗ってバランスをとったり、弾んだり、転がったり、Gボールをついたりする動きを身に付け、運動に取り組むことができる。(運動)
- 約束や決まりを守り、楽しくGボールチャレンジの運動に取り組もうとする。(態度)
- 自己の能力に合った動きを選んだり、友達と一緒にできる動きや行い方を選び、互いの動きや考えのよいところを見付けることができる。(思考・判断)

#### 2 指導計画

表1は、授業実践の指導計画を示したものです。Gボールに乗ってバランスをとったり、弾んだり、転がったり、Gボールをついたりする動きの面白さを見付けさせることから始め、友達のよいところを見付けたり、コツを伝え合ったり、励まし合ったりする仲間とのかかわりの中で、一人でできる動きや友達と一緒にできる動きを増やせるように計画しました。第4学年を対象としたこの単元には、計5単位時間を充てました。授業展開例では、この中の、第4時の実践例を紹介します。

表1 授業実践の指導計画（全5単位時間）



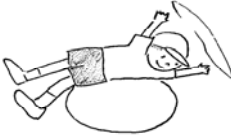

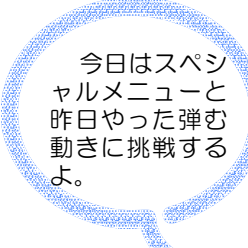
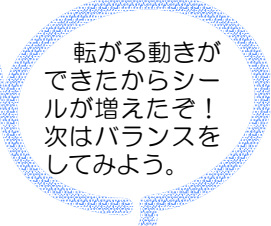

時	学習のねらい	学習活動
第1時	<p>【Gボールチャレンジの面白さをとらえる】</p> <p>Gボールを使った多様な動きがあることに気付き、その面白さを味わいながら運動に取り組む。</p>	<p style="text-align: right;"><b>Point 1</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぐしの運動をする。 ○音楽に合わせて手をつないだりマッサージをし合ったりする円形コミュニケーション運動に取り組み、心と体をほぐす。</li> <li>Gボールを紹介し、目当てを確認する。</li> </ol> <p style="text-align: center;"><b>【Gボールを使って、できそうな動きをやってみて、面白さを見付けよう】</b></p> <p>○Gボールの使い方を知る。 ○Gボールを使ってできそうな動きを出し合い、動きの種類を知る。</p> <p><b>バランスをとる</b>      <b>弾む</b>      <b>つく</b>      <b>転がる</b></p>  <p style="text-align: center;">その場で</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Gボールを使ってできそうな動きに取り組み、Gボールチャレンジの面白さをとらえる。 ○どんな動きができそうか試しにやってみる。 ○見付けた動きを紹介し合う。</li> <li>学習のまとめをする。 ○学習の進め方を知る。</li> </ol>
第2時 ～ 第5時	<p>【Gボールチャレンジの楽しさを感じる】</p> <p>Gボールを使って、一人のできる動きを増やしたり、友達とできる動きを増やしたりすることの楽しさを感じながら運動に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>【友達とできる動きの例】</b></p> <p style="text-align: center;"><b>弾む</b>      <b>つく</b></p>  <p style="text-align: center;"><b>バランスをとる</b></p>  <p style="text-align: center;"><b>転がる</b></p>  </div>	<p>*第2時～第5時については、それぞれ次の1～6の学習活動を行い、一人のできる動きと友達とできる動きを次第に増やしていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぐしの運動をする。 ○音楽に合わせて、Gボールを使った円形コミュニケーション運動に取り組み、心と体をほぐす。</li> <li>前時の活動を振り返り、目当てを確認する。</li> </ol> <p style="text-align: center;"><b>【Gボールを使って、一人のできる動きを増やそう】〈前半の活動〉</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Gボールを使って、一人のできる動きに取り組む。 ○前時までに紹介した動きに新しい動きを加える。 ○動きを工夫しながら行う。 ○動きができたなら技ボードにシールをはる。</li> </ol> <p style="text-align: right;"><b>Point 2</b></p> <p>技ボードは、本時で取り上げた技の絵を大きく描いたもので、班ごとに用意する。このボードには、それぞれの児童がシールをはることができるようになっている。</p> <p><b>バランスをとる</b>      <b>弾む</b>      <b>つく</b>      <b>転がる</b></p>  <p style="text-align: center;">フープの周りを</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>前時の活動や前半の活動を振り返り、目当てを確認する。</li> </ol> <p style="text-align: center;"><b>【Gボールを使って、友達とできる動きを増やそう】〈後半の活動〉</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Gボールを使って、友達とできる動きに取り組む。 ○前時までに紹介した動きに新しい動きを加える。 ○人数や方法を変えて工夫しながら行う。 ○動きができたなら技ボードにシールをはる。</li> <li>学習のまとめをする。 ○できるようになった動きを紹介し合う。</li> </ol> <p style="text-align: right;"><b>Point 3</b></p>

### 3 授業展開例

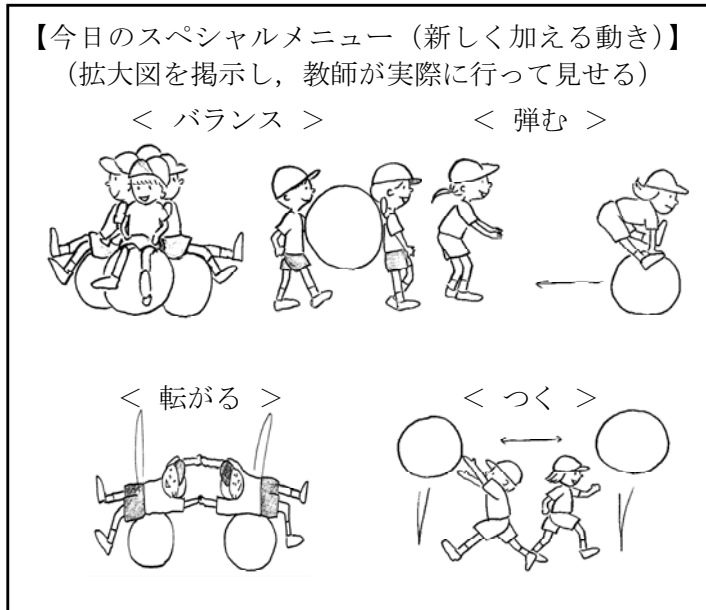
本時（第4時）の目標を次のように設定しました。

Gボールを使って一人でできる動きや友達とできる動きを増やすことができる

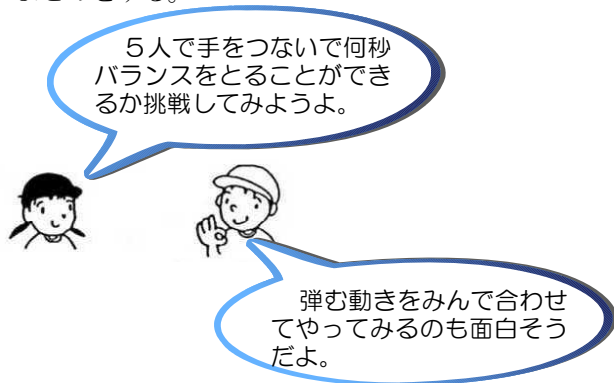
表2 学習指導案（本時案）

学習活動と児童の姿	教師の支援と評価
<p>1 ほぐしの運動をする。</p> <p>2 前時の活動を振り返り、前半の活動の目当てを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>目当て1</b> Gボールを使って、一人でできる動きを増やそう。</p> </div> <p>3 Gボールを使って、一人でできる動きに取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>【今日のスペシャルメニュー（新しく加える動き）】</b></p> <p style="text-align: center;">（拡大図を掲示し、教師が実際に行って見せる）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>&lt; バランス &gt;</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>&lt; 弾む &gt;</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>&lt; 転がる &gt;</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>&lt; つく &gt;</p>  </div> </div> </div> <p>4 前時の活動や前半の活動を振り返り、後半の活動の目当てを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>目当て2</b> Gボールを使って、友達とできる動きを増やそう。</p> </div>	<p>音楽に合わせて、Gボールに座って弾みながら手拍子やハイタッチをしたり、Gボールの上におお向けになって伸びをしたりする簡単な動きを取り入れた円形コミュニケーションに取り組みさせることにより、Gボールに慣れるとともに、心と体をほぐすことができるようにする。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">Point 1</div> <p>技ボードにはったシールでできるようになった動きや数を確認させ、動きを増やしたいという思いを高めることにより、本時の目当てを持つことができるようにする。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">Point 2</div> <p><b>【評価】</b> 「Gボールに乗ってバランスをとったり、弾んだり、転がったり、Gボールをついたりする動きに取り組むことができる。」 (運動)</p> <p>今日のスペシャルメニュー以外にも、前時までの動きで増やしたい動きがあれば取り組んでもよいことや、動きを工夫してもよいことを伝えることにより、一人一人の能力に合った活動ができるようにする。</p> <p>教え合ったり励まし合ったりする中で、できた動きを、班の友達に見てもらってから、班ごとの技ボードにシールをはらせることにより、技が増えたことを実感したり、班のみんなで技を増やした喜びを感じたりすることができるようにする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;">  <p>今日はスペシャルメニューと昨日やった弾む動きに挑戦するよ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>転がる動きができたからシールが増えたぞ！次はバランスを試みよう。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>技ボードにシールをはっていない動きを確認させたり、前時に工夫した取り組みを紹介させたりすることにより、後半の活動の目当てを持つことができるようにする。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">Point 2</div>

5 Gボールを使って、友達とできる動きに取り組む。



6 学習のまとめをする。



人数や方法を変えて取り組んでもよいことを伝えることにより、工夫しながら活動に取り組むことができるようにする。また、教え合ったり励まし合ったりしながら活動している班を称揚することにより、力を合わせて動きに取り組むよさに気付くことができるようにする。

Point 3

動きができれば班の技ボードにシールをはらせることにより、班のみんなで技を増やした喜びを感じることができるようにする。

【評価】  
「友達とできる動きを増やそうと、互いの動きやよいところを見つけている。」（思考・判断）

班でできるようになった動きを紹介させることにより、活動を工夫しながら動きを増やせた喜びを感じることができるとともに、次時の取り組みへの意欲を持つことができるようにする。

増やせた動きや自分でつかんだコツを紹介させることにより、身に付いた動きを実感し、できる動きが増えることの楽しさを感じることができるようにする。

### 3 成果と課題

ほとんどの児童は、今までGボールの上に座ったり、バランスを取ったりする経験がありませんでしたが、単元終了後、全員がひざ立ちになって乗ったり、両足を上げて腰だけで乗ったり、重心を高くしてひざでバランスを取ったりすることができるようになりました。新しく考えた自分の動きを友達に説明したり、互いに動きを真似したりしながら、自主的、自発的に意欲を持って学習に取り組んでいました。そして、「もっと動きを考えたい、いろいろな組み合わせの動きをしてみたい、もっと高度な動きを考えてみたい」と、既習の動きや新しい動きを組み合わせで多様な動きを考えていく姿も見受けられました。 Point 3

これらの活動を通して、児童は体を動かすことの楽しさを十分に味わうことができたと思います。他の領域でも、このように児童が意欲的に取り組むことができる授業を工夫していく必要があると考えます。

#### 実践者からのコメント

Gボールという、たった一つの用具を使い、工夫一つでこのように深まりや広がりのある授業が展開できるのだということが実感できました。Gボールは、だれでも気軽に触れ、遊ぶことができる用具であり、運動の苦手な児童や意欲の低い児童でも、自ら動くことの楽しさや心地よさを容易に味わうことのできるものだと思います。また、他の用具に比べて、多様な姿勢や運動の内容があり、個々の能力に応じた課題の設定を行いやすいという利点もあります。



### 3

## これからの方向性

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きくかかわっており、「生きる力」を支える重要な要素となっています。しかしながら、児童の体力が全体として低下していることがうかがえるとともに、積極的に運動する児童とそうでない児童の二極化が進んでいるとの指摘があります。

これからの小学校体育科の目指す方向は、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくための基礎を培うことです。生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくことと体力の向上を重視し、児童が自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、それぞれの運動を楽しく行うことが大切です。これらのことを実現するためには、課題解決的な学習を一層充実させるとともに、言語活動の充実をより一層図ることも大切な要素となります。また、一人一人の児童がじっくりと学習に取り組み、学習内容の確実な定着を図ることも大切です。

これらの観点から、これからの方向性を次に示します。

### 学習形態

### 課題解決的な学習の充実と学習内容の確実な定着

小学校体育科では、これまでも課題解決的な学習を取り入れた授業を推進しており、一定の成果を上げてきました。しかしながら、個に応じた指導の充実という視点から、個に応じた目当てを持たせることを重視してきたものの、教師の指導・支援が不十分なため、ゴール地点がそれぞれになってしまい、児童に最低限身に付けさせるべき技能などを示した評価規準に到達させることができていない授業が少なからず見受けられました。今後は、振り返りの場面を設定して適切に評価するなどし、学習内容の確実な定着を図り、すべての児童が評価規準に達するような指導が求められます。

### 言語活動

### 言語活動の一層の充実

今回の学習指導要領の改訂で、全教科で言語活動の充実が求められています。小学校体育科では、これまでも友達とのかかわりの中で、言葉で伝え合うことを重視してきました。体育における言語活動は、ただ単に学習カードに目当てを書くだけの活動ではなく、目当てを決定するための情報を事前に集め、それを基に考えたり、選んだりしながら目当てを決定し、表現していくという一連の活動すべてを言語活動と考えます。また、ルールの工夫についても、決めたこと自体が言語活動ではなく、事前に収集した情報を基に話し合い、みんなで考え、話し合い、決めていく一連の活動すべてが言語活動であるといえます。これらのことから、教師がどのような場面で、どのような形で児童に情報を与えていくということが重要となってきます。

今後も様々な工夫を行い、言語活動の充実をより一層図っていくことが体育の学習活動の充実につながります。

### 指導計画

### 年間指導計画作成の工夫

今回の学習指導要領の改訂で、「体づくり運動」以外のすべての指導内容について、2学年のいずれかの学年で取り上げ指導することができるなど、運動の取り上げ方の一層の弾力化が図られています。このことは、個に応じた多様な学習を積極的に行うことを目指したことによるものです。年間指導計画の弾力化による学習指導の効果は、これからの小学校体育の目指す方向である生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくことの基礎を培うことを促すものと考えます。各学校においては、二つの学年を一つの単位として「何を教える必要があるのか」を整理し、バランスのよい、しかも地域や学校の実態に応じた幅のある指導計画を工夫して作成し、学習を進めることが求められています。



## 1 道徳授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説道徳編（平成20年8月）では、道徳教育における道徳の時間の役割を「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」とし、その中核的な役割や性格を明確にしています。要となる道徳の時間は、児童が道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、内面的資質としての道徳的実践力を身に付けていく時間です。そのため、道徳の時間の指導については、児童が意欲的に道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることができるよう、指導過程や指導方法を工夫することが大切です。また、児童が、自らの道徳的な価値観の変化や成長を実感できるように工夫することも大切です。

そこで、小学校道徳の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 魅力的な教材の開発や活用

教材の開発や活用に当たっては、児童の感性に訴え、感動を覚えさせることができるなどの要件を踏まえることが必要です。そのため、日常から報道や書籍、身近な出来事など、教材を広く求める姿勢を持つことが大切です。具体的には、先人の伝記や自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とした資料、地域の文化や出来事などを取材した郷土資料など、多様な教材の開発と活用に努めることが必要です。

### Point 2

#### 地域の人材の活用

地域で活躍している人々をゲストティーチャー（以下「GT」という。）として迎え、授業への協力を得ることは大きな効果が期待できます。GTから、実体験に基づいて分かりやすく語ってもらうことは、児童が道徳的価値を深めていくための手がかりになります。また、地域の先人や伝統と文化などを聞き取り、地域教材の開発への協力を得ることが考えられます。さらに、開発した資料の活用では、解説や実演をしてもらったり、児童の質問を受けて回答してもらったりするなどの協力を得ることも考えられます。そのために、日ごろから地域の人材の情報を集めたりリストなどを作成しておくことが必要です。

### Point 3

#### 自分の考えを基に表現する機会の充実

話し合いを深めるためには、児童それぞれに自分の考えを持たせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要です。話し合いにより、自分とは異なった考えに接し、自分の考えが深まることを実感することができます。

また、話し合いとともに書くことも重要です。書くことにより、不明確だった自分の考えが整理されたり、日ごろは忘れていた体験や自分自身のことを思い出したりすることができます。具体的には、学習を通して初めの段階と比べて自分がどう変わったかを振り返ることができるような書く活動、児童が想定したもう一人の自分に問いかけて考えを深める自己内対話などが考えられます。その際、「心のノート」を活用するとより効果的です。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆第5・6学年（内容項目：1－(2)）希望・勇気

題材名 「夢に向かって」 大地をキャンバスに―<sup>しげもりみれい</sup>重森三玲―

Point 1

Point 2

Point 3

を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

小学校高学年は、ある人物の生き方にあこがれたり、自分の夢や希望がふくらんだり、児童がそれぞれに高い理想を追い求めたりする時期だといわれます。また、同時に自分に自信が持てなかったり、夢と現実の違いを意識したりする時期でもあります。このような時期だからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、努力目標を立て、希望と勇気を持って取り組み、夢に向かって前進していこうとする強い意志と実行力を育てることが必要になります。そこで、本実践では、郷土の先人である「重森三玲」の生き方に学ぶことにより、児童が希望を持つことの大切さや苦折感を克服する人間の強さについて考えられるようにしたいと考えました。

資料は「大地をキャンバスに―重森三玲―」という岡山県の郷土の実話に基づいた自作資料です。この資料は、重森三玲の生き方について地元の方の協力を得ながら取材し創作したもので、学校の財産として大切に受け継がれてきているものです。本実践に当たり、ねらいに迫るために中心場面を再考し、それに応じて加筆、修正することとしました。 **Point 1**

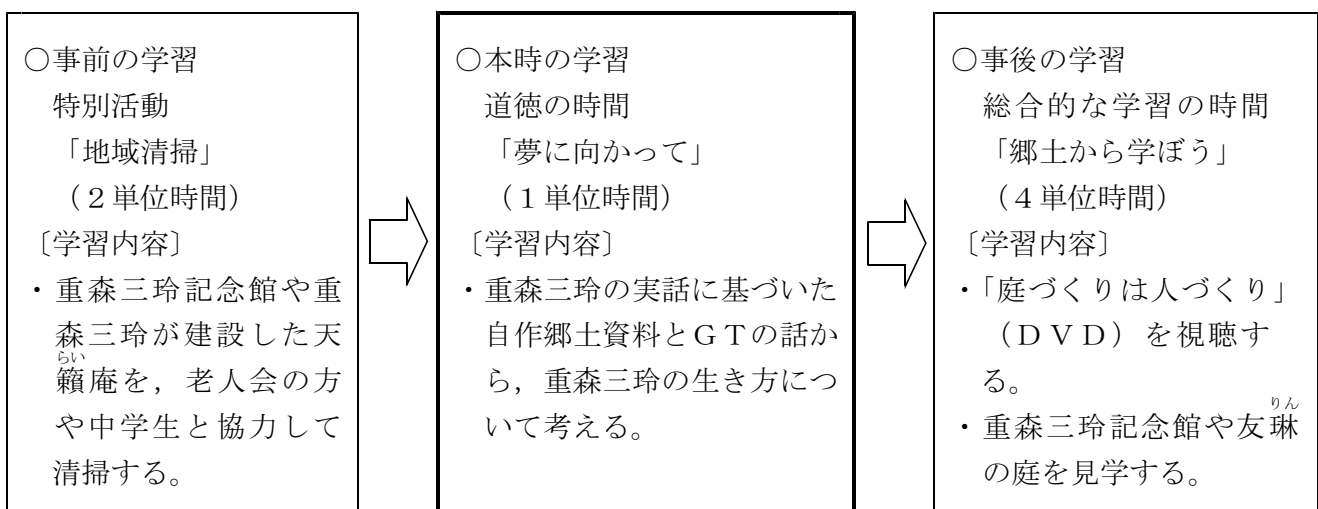
また、重森三玲の弟子である作庭家の岩本俊男さんをGTとして招き、重森三玲の夢に向かって努力を続けた生き方について、児童に直接語っていただくこととしました。これにより、重森三玲の生き方が強く印象付けられ、児童は重森三玲の生き方に尊敬やあこがれを抱くことができるようになると思われました。そして、将来、困難なことに出会っても希望と勇気を持って努力を続けることの大切さを感じ取ることができるようになると思われました。 **Point 2**

さらに、終末の段階では、書く活動を取り入れることにしました。学習を振り返り、学んだことや考えたことなどを書くことにより、ねらいとする道徳的価値を自分とのかかわりでとらえやすくなると思われました。 **Point 3**

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 指導計画



## 2 資料の作成

### (1) 資料の概要

三玲は、子どものころから絵を描くのが大好きだった。尋常高等小学校を卒業した後は、農作業をしながら家で勉強を続けていたが、絵の勉強をするという夢をかなえようと、東京の美術学校に入学した。その後、三玲は西洋の美術を学び、日本と西洋の美術を組み合わせた絵を作り出した。しかし、三玲の絵はだれにも認められなかった。

そのようなとき、ある寺を訪れた三玲は、その庭園の美しさに息を飲み、「小さなキャンバスだけが絵ではない。私はこの大地に絵を描きたい。庭園を作る人になろう」と決心した。その後、三玲は作庭の研究に没頭し、全国各地に二百以上の有名な庭を作った。三玲が作った庭園は、日本人はもとより外国の人々にも愛され、現在も感動を与え続けている。

### (2) 自作資料の改訂

まず、重森三玲に関する資料を集めました。その上で、「希望・勇気」というねらいに迫ることができるように資料を見直しました。集めた資料を分析すると、三玲は描いた絵が認められなかったとき、明確な将来像もなく悩み、葛藤<sup>かつとう</sup>していたことが分かりました。そして、「ある寺の庭園」を見たときに、人生の転機ともいえる直感的な強い決心を抱いたことも分かりました。

そこで、中心場面をこれまでの「だれからも絵を認めてもらえず悩む」場面から、人生の転機となった「ある寺の庭園を見て大地に絵を描こうと決心した」場面（「(1) 資料の概要」の下線で示した箇所）に変えました。また、中心場面を変えるに当たり、「ある寺の庭園」を見る前に持っていた三玲自身の葛藤が描かれるように書き加えるとともに、絵が認めてもらえず悩んでいたころの表現や文章量が軽くなるようしました。

## 3 授業展開例

### (1) 本時の目標

郷土吉川（岡山県加賀郡吉備中央町）に生まれた重森三玲の生き方を通して、夢を持ち、その夢に向かって努力を続けようとする心情を育てる。

### (2) 本時の主な学習内容及び学習活動

	学習活動	主な発問と児童の意識	教師の支援
導入	1 重森三玲について、知っていることを話し合う。	○資料に登場する「重森三玲」を知っていますか。 ・聞いたことはある。 ・天籟庵を作った人だ。	・重森三玲や天籟庵の写真を提示し、何をした人だろうと問い、資料への期待感を高める。
展開	2 資料「大地をキャンバスにー重森三玲ー」を読み、話し合う。	<div data-bbox="446 1747 1436 1881" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>Point 1</b> 自作した資料を児童がどのように受け止めるのかを予想して、提示の仕方、発問の仕方などを十分に検討しておくことが大切です。</div> ○美術学校へ入学したときの三玲さんはどんな気持ちだろう。 ・やっと夢がかなった。 ・頑張るぞ。	・重森三玲の写真や影絵を提示しながら資料を読むことで内容をとらえやすくする。

展 開	3 G Tの話 を聞く。	<p>○絵が認められなかったときの三玲さんはどんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私には才能がないのだろうか。</li> <li>・あきらめて郷土へ帰ろうか。</li> </ul> <p>◎ある寺の庭園を見たとき、三玲さんはどんな決心をしたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめないで努力したい。</li> <li>・庭をキャンパスにしたい。</li> <li>・この大地に絵を描きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本発問で、重森三玲が大きな夢を持っていたこと、描いた画が認められず自信を失い悩んでいたことを押さえる。</li> <li>・中心場面での重森三玲の思いを一部空欄にし、考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「小さなキャンパスだけが絵をかくものではない。わたしは〔 〕たい。庭園をつくる人になろう。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助発問により、悩み抜いた末に持った直感的な強い決心であることをとらえさせる。</li> </ul>
	4 学習を振り返り、学んだことや考えたことを書く。	<p>○実際の三玲さんはどんな人だったのか、話を聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2倍努力してもだめなら3倍努力する三玲さんはすごいな。</li> <li>・郷土吉川に努力を続けて夢をかなえた人がいたんだな。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>Point 2</b> G Tの体験を踏まえながら、登場人物の生き方を語っていただくことにより、ねらいとする価値がとらえやすくなります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に強く残っていることを書くように促す。</li> <li>・教師も学んだことを述べ、夢に向かって努力することの大切さが、児童の心に残るようにする。</li> </ul>
終 末	4 学習を振り返り、学んだことや考えたことを書く。	<p>○今日の学習で学んだことや考えたことを書きましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめないで努力を続けた三玲さんに驚きました。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>Point 3</b> 学習を振り返り、心に残ったことを書くことにより、児童はあいまいであった自分の考えを整理することができます。</p> </div>

### 3 成果と課題

#### 1 道徳の時間の学習の様子

導入では、重森三玲の生家が友達の家付近にあると聞き、多くの児童が驚きました。

展開では、描いた絵が認められないで悩み葛藤している重森三玲に対して、多くの児童が共感的な発表をしました。中心場面の空欄への書き込みでは、「大きな庭に見た人がびっくりするような絵を描きたい」「庭を一つの絵として見てもらいたい」などがありました。ここで、



図 授業の様子

「三玲さんの決心は、思いつきみたいなものだろうか。それとも、悩み続けて見付けたものだろうか」と問い、悩んだ末に持った直感的な強い決心であることを押さえました。

その後、GTを紹介しました。GTは、重森三玲と共に過ごした様々なエピソードを語ってくださいました(図)。涙ぐみながら語る姿から、夢と希望を持って努力を続けた重森三玲の生き方を感じ取ることができました。児童は、身を乗り出して話に聞き入っていました。GTが語った、重森三玲のだれにでも優しく温かい人柄、人の2倍も3倍も勉強し努力する意志の強さが児童の心に残ったようでした。児童が書いた感想(一部)を紹介します。

- ・三玲さんは、自分は努力して相手には温かく優しくできるすごい人だと思いました。三玲さんと一緒に働いていた岩本さんがとてもうらやましいです。
- ・三玲さんは、だれにも認められないのにへこたれずに頑張り、それがだめでもまた頑張っすてすごいと思いました。ぼくも三玲さんみたいにあきらめずに頑張りたいと思いました。

## 2 単元全体の学習の様子

地域清掃では、天籟庵を一緒に清掃をしていた老人会の方から、「これは、重森三玲さんが建てた『郷土吉川の宝物』なんだよ」と教わりました。多くの児童は、天籟庵が地域の宝物だと聞き、驚いていました。

道徳の時間の後、児童は、重森三玲記念館を見学したり、DVDを視聴したりして、重森三玲の考えや業績について調べました。友琳の庭の見学では、そのざん新さに多くの児童が驚きの表情を見せました。その後、同行していただいたGTから、重森三玲は人に感動を与えるよりよい庭を作るために、研究を重ね、努力し続けたことを聞きました。

学習のまとめとして、重森三玲の生き方を学んで心に残ったことを書きました。

- ・三玲さんは、石がどのようにしたら美しく見えるかをよく考えていてすばらしいと思いました。何度失敗してもあきらめていなくて「夢は必ずかなう」という言葉が心に残りました。
- ・三玲さんは、すごい人だなと改めて思いました。私が一番好きになった言葉は「永遠のモダン」という言葉です。私も人から「すばらしい」と言われるようなことがしてみたいです。

## 3 実践を終えて

自作資料を再構成し、中心場面を見直したことにより、児童はねらいとする重森三玲の生き方を感じ取ることができたように思います。また、重森三玲をあこがれの対象としてとらえ、人の生き方のモデルとして学習を深めることができたと思います。 **Point 1**

また、GTの教育的効果を改めて感じました。GTとの事前の打合せでは、指導計画と学習内容の概要を知らせ、学習の意図を知っていただいた上で、児童に伝える内容を精選していただきました。GTだからこその話を聞いて、児童は心揺さぶられる体験をすることができたと思います。 **Point 2**

そして、終末の段階で書く活動を取り入れたことにより、児童は、資料やGTの話から学んだことや考えたことを自分なりの言葉で整理することができたと思います。今後は、話し合いを充実させ、自分とは異なる考えに触れ、自分の考えが深まるという体験を児童がすることができるよう工夫をしていきたいと思います。 **Point 3**

### 実践者からのコメント

資料を分析していく過程で、教師である私自身が重森三玲の生き方にあこがれを抱き、夢を持って努力を続けることの大切さを実感することができました。このような思いが、自作資料を改訂したり、GTを活用したりする原動力になったと思います。

## 8 これからの方向性

道徳の時間が道徳教育の要としての役割を果たすためには、教育活動全体を通じて行われる道徳教育との関連を明確にすることが必要です。また、学習指導要領に示された道徳の指導内容全体を視野に入れながら、内容項目の指導を計画的に行うことが必要です。

ここでは、前述した授業づくりのポイントに加え、大切にしたい内容を次に示します。

### 指導計画

#### 授業に生きて働く年間指導計画の作成

道徳の時間の指導が、計画的、発展的に行われるためには、道徳教育の全体計画を基に、道徳授業に生きて働く活用しやすい年間指導計画を作成することが必要です。そのためには、指導の時期、主題名、内容項目、ねらい、資料に加え、展開の概要や他の教育活動との関連などを示し、各時間の指導の概要が具体的に分かるようにすることが必要です。

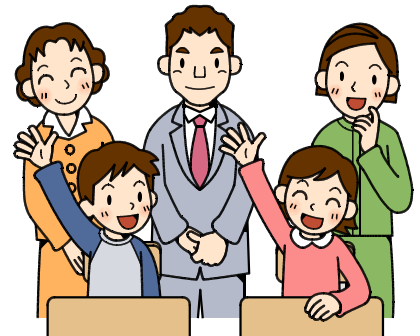
道徳の時間に校長や教頭、他の教職員がかかわることができるようにするため、また、計画的に授業研修を行うことができるようにするため、指導者や授業研修についても道徳の時間の年間指導計画に示しておくことが大切です。

### 家庭・地域連携

#### 道徳の時間の授業を保護者や地域の人々に公開

道徳教育には、家庭や地域社会との連携が不可欠です。保護者や地域の人々に児童のよさや課題を知ってもらい、家庭や地域社会での道徳教育が推進できるようにするには、授業を公開し、それに基づく話し合いを持つことが効果的です。授業では、保護者や地域の人々が児童と同じように授業を受ける形で参加したり、児童と対話したりするような工夫も効果的です。授業公開により、児童はもとより、保護者や地域の人々にとってもよりよく生きる上での課題を共有することが期待できます。

また、道徳の時間の学習の様子を、学校・学年・学級通信やパネル展示などで、積極的に保護者や地域の人々へ知らせることも大切です。



### 中学校への接続

#### 連続性や発展性を考慮した道徳性の育成

小学校学習指導要領「第3章道徳」には、各学年を通じて、児童の「自立心」や「自律性」、  
「生命を尊重する心」の育成に配慮することが大切であると示されています。

これを内容項目の四つの視点から見ると、1の視点（主として自分自身に関すること）では、生活の自己改善を図ることの重要性を示すとともに、自立心や自律性及び自己に対する責任感を  
はぐくむことを明確にしています。また、3の視点（主として自然や崇高なものとのかかわりに  
関すること）では、身に付けるべき基盤的な性格を持つ内容として、生命を尊重する心の育  
成をどの学年も項目の最初に位置付けています。さらに、4の視点（主として集団や社会との  
かかわりに関すること）では、社会参画への意欲や態度の育成、法や決まりを守る態度の育成  
にかかわる内容を強調しています。

小学校では、中学校への接続を意識し、各学年段階における内容項目の連続性や発展性を考  
慮した授業づくりを進めることが大切です。



## 1 外国語活動授業づくりのポイント

外国語活動の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め」ること、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」を図ること、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ」ること、という三つの柱から成り立っており、中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力の「素地」を育成することです。

そこで、小学校外国語活動の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 児童の発達段階、興味・関心、地域の実態等を踏まえた指導計画

2年間を通して外国語活動の目標の実現が図れるように、児童の実態や地域の実情等に応じて、学年ごとの目標を設定し、その目標を達成するための学習内容や言語活動を検討する必要があります。その際、「英語ノート」の活用方法についての共通理解を図り、児童の実態等に応じて、「英語ノート」の中から必要な学習内容と言語活動を選択し、効果的に配列することになります。必要以上に細部にこだわったり、複雑な言語活動を目指したりするのではなく、児童の発達段階を考慮し、児童にとって身近な場面を設定することが大切です。

### Point 2

#### 外国語を用いたコミュニケーションの楽しさの体験

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、実際に児童に外国語を使ったコミュニケーションを体験させることで、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを実感させることが重要です。

機械的に単語や表現を繰り返す口頭練習に終始するのではなく、児童が興味・関心を示す題材を扱ったり、児童の知的好奇心を喚起する活動を行ったりして、児童が進んで外国語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う場面を設定することが大切です。

### Point 3

#### 外国語と日本語の違いや言葉の面白さや豊かさへの気付き

歌やチャンツの中で、外国語の音声、リズム、イントネーションなどに慣れ親しませることにより、日本語と外国語の音声面等の違いに気付かせたり、外来語を効果的に活用して、日本語と外国語の意味上の違いに気付かせたりすることで、言葉の面白さや豊かさを実感させることが重要です。

また、児童の身近な外来語を題材として取り上げることで、言葉の広がりや体験させたり、日本と外国との生活、習慣、行事などを題材としてコミュニケーションを図ったりすることで、多様なものの見方や考え方があることに気付かせることが大切です。



## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

## 1

### 実践のねらい

外国語活動では、多くの表現を覚えたり、細かい文法事項を理解したりすることよりも、実際に言語を用いてコミュニケーションを図る体験を通して、それらの大切さに気付かせることが重要です。したがって、学級担任の大きな役割は、扱う表現とその使用場面の必然性を十分考慮した言語活動を計画し、児童に「意味ある」コミュニケーションを体験させることにあります。

そこで、「英語ノート」を中心的な教材として、児童に体験的に英語を理解させる言語活動の実践例の二つを、当該単元の指導計画と学習指導案により紹介します。いずれの実践例も、児童にふだん使い慣れていない外国語を使用させることによって、外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験させるとともに、その大切さも実感させることを目的としています。

また、二つの実践例は、早急に「発話すること」を求めず、「発話する」前に、まず十分に英語を聞く活動を取り入れていることが大きな特徴です。言葉に慣れ親しむには、「聞くこと」から始めることが、無理なく外国語活動を進めるポイントです。

## 2

### 学習指導の実際

〔実践 I〕 単元名・題材名：好きかどうかたずねてみよう（英語ノート1 Lesson 4）

Point 3

と関連した授業

#### 1 本単元で取り上げる気付き

英語を語源とするカタカナで表記する日本語（以下「外来語」という。）とその元になる英語とでは、アクセントや音が違うことがあることに気付き、英語特有のリズムやイントネーションを体得する。

#### 2 単元指導計画のポイント

	主な学習活動	指導上の留意点
第1時	○外来語と英語のアクセントや音の違いに気付く。 【本時】	○ゲームを通して、外来語と英語の音の違いに着目して聞くことができるようにする。 ○細かい音の違いを取り上げるのではなく、違いがあることに気付くことを目的とする。 ○外来語と英語の音の違いについて気付いたことを発表したり、記述したりする場を設定する。
第2時	○外来語と英語のアクセントや音の違いに気を付けて聞く。	○第1時に自分が試していない言葉についても、英語と外来語のアクセントや音の違いに着目しながら聞くことができるように、第1時の活動を振り返り、児童の気付きを紹介する。
第3時	○先生に、自分の好きな物が好きかどうかを尋ねる。 Do you like ~?	○英語と外来語のアクセントや音の違いに注意しながら、英語を聞いたり話したりしようとするができるように、第1時の活動を振り返り、前時までの児童の気付きを紹介する。
第4時	○友達同士で、自分の好きな物を相手が好きかどうかを尋ね合う。	○英語と外来語のアクセントや音の違いに注意しながら英語を聞いたり話したりしようとするができるように、第1時の活動を振り返り、前時までの児童の気付きを紹介する。

### 3 授業展開例（第1時）

#### (1) 本時の目標

外来語と英語のアクセントや音の違いに気付き、英語特有の発音に慣れ親しむ。

#### (2) 本時の主な学習内容及び学習活動

主な学習活動	主な言語材料及び指導上の留意点
<p>○あいさつをする。 ○キーワードゲームをする。</p> <p>○学級担任と ALT の会話を聞く。</p> <p>○様々な外来語について、そのまま発音しても伝わるかどうか予想する。 ○実際に ALT に発音してみて、伝わらなかった語については、伝わるように発音を工夫する。 ○振り返りをする。 ○あいさつをする。</p>	<p>○ゲームのルール：英語と日本語の発音を聞き分け、英語の発音で言ったときのみ、机の上に置いた消しゴムを素早く取る。例えば、キーワードが <b>apple</b> の場合、「アップル」と日本語の発音で言ったときには、消しゴムをとってはいけない。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Teacher: Do you like アップル? ALT: What? What is アップル? Teacher: Do you like ピザ? ALT: What? What is ピザ?</p> </div> <p>○学級担任の話す英語が ALT に伝わらない場面を見せ、外来語で言っているから伝わらないのではないかと推測させることで、外来語と英語の音声の違いに着目しやすくする。 ○英語での発音を予想させながら、単語を紹介する。</p> <p>○伝わらない語については、発音を工夫すれば伝わるかもしれないことを伝える。</p> <p>○外来語と英語の発音の違いについて気付いたことをワークシートに記述し、発表する。</p>
<p>■ 児童の気付きの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来語と英語では、発音が違うところがある。</li> <li>・strawberry は、「ロ」を強く長く「ストローベリー」と言ったら伝わった。</li> <li>・pizza は、「ザ」を「ツァ」にして「ピッツァ」と言ったら伝わった。</li> <li>・英語を話すときには、先生や CD の英語の発音をまねて話すことが大切だと思う。</li> </ul>	

#### [実践 II] 単元名・題材名：行ってみたい国を紹介しよう（英語ノート2 Lesson 5）

**Point 2** を生かした授業

#### 1 本単元で体験させたい言語活動と主な言語材料

自分が行ってみたい国をその理由とともに発表することを通して、英語の音声やリズムに慣れ親しむとともに、友達の発表を聞いて、その概要を理解する。  
Where do you want to go? I want to go ~.

#### 2 単元指導計画のポイント

	主な学習活動	指導上の留意点
第 1 時	<p>○国名当てクイズをしながら、世界の国々について知る。 ○かるた取りをする。</p>	<p>○国名と国旗を示しながら、世界の国々についての理解を深める。 ○国名の日本語表現と英語表現の違いに気付かせることで言語</p>



第1時		への関心を高める。 ○国旗に含まれる色と形をヒントにしたかるた取りをすることで国旗がどの国かよく分からない児童も進んで参加できるようにする。
第2時	○行きたい国やその理由のスピーチの仕方を知り、スピーチの練習をする。 ○行きたい国を尋ねたり答えたりするやりとりを知り、その言い方を練習する。	○英語ノート「Let's Enjoy 2 世界遺産を知ろう」や写真等を示しながら、行きたい国やその理由のスピーチの仕方を紹介する。 ○教室に図書資料を置いたり、「世界遺産カルタ」を掲示したりして、世界の国々に対する興味を喚起するとともに、行きたい国とその理由に関する情報を提供する。
第3時	○行きたい国やその理由の言い方を練習する。 ○行きたい国を尋ねたり答えたりする言い方を練習する。 ○行きたい国と国旗、行きたい理由を絵や写真を使ってポスターに作成する。	○チャンツ等により、行きたい国を尋ねたり答えたりする英語表現に親しませる。 ○児童がポスターを作成している間、机間指導し、個別に“Where do you want to go? Why?”等の質問をする。
第4時	○行きたい国とその理由を進んで発表したり、友達の発表を聞いたりする。 <b>【本時】</b>	○安心感を持ってコミュニケーション活動に取り組めるように、1対1でのコミュニケーション場面を設定する。 ○積極的に発表を聞くために、聞き手の児童に「行ってみたい度」をカードで示させる。

### 3 授業展開例（第4時）

#### (1) 本時の目標

ポスターを用いて、自分が行ってみたい国をその理由とともに発表する。

#### (2) 本時の主な学習内容及び学習活動

主な学習活動	主な言語材料及び指導上の留意点
<p>○あいさつをする。 ○チャンツをする。</p> <p>students: Hello. students: I want to go to Italy. students: I want to eat pizza. I want to play soccer. I want to see the Leaning Tower of Pisa. Thank you.</p> <p>○発表をする。</p>	<p>Teacher: Hello. Teacher: Where do you want to go? Teacher: Why? Teacher: Thank you.</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを二つ（A・B）のグループに分ける。</li> <li>・Aグループは最初に発表する。</li> <li>・Bグループは発表を聞いた後、「行ってみたいカード」（図1）を発表した児童に渡すことで、「行ってみたい度」を示す。 「行ってみたいカード」の枚数 普通・・・カード1枚 行ってみたい・・・カード2枚 とても行ってみたい・・・カード3枚</li> </ul>	 <p>図1 行ってみたいカード</p>  <p>図2 発表している児童の様子</p>
○振り返りをする。	

### ■ 児童の発話例

I want to go to Japan.

I want to see the Kinkakuji temple.

I want to see the Ginkakuji temple.

I want to see the Kiyomizu temple.

I want to go to Canada.

I want to see beautiful lakes.

I want to go to America.

I want to see a baseball game.

I want to see the volcano in Hawaii.

I want to go to Spain.

I want to eat Paella de marisco.



## 成果と課題

### 1 成果

いずれの活動においても、「英語が話せた」「自分の思い（英語）が分かってもらえた」などの肯定的な感想を抱いている児童が多く見られました。特に、実践Ⅱでは、ペアの児童の英語を聞いて、「相手の行きたい国やその理由を英語で知ることができてよかった」等のコミュニケーションの楽しさを体験できたようでした（図2）。このような体験ができた児童は、今後、英語を聞いたり話したりする活動を楽しむ中で、英語を注意深く聞いたり、相手に伝わるかどうか、どのように言えば伝わるのかという視点を持ちながら、活動に取り組むことが期待されます。また、一度で伝えたいことが伝わらなくても、自分が知っている表現や音声に関する知識を駆使して、相手と粘り強くかかわろうとする積極的な態度も期待されます。

### 2 課題

「英語が話せた」という実感を得た児童が多くいた一方で、どうしても話すことが苦手な児童もいました。今回の実践では、だれかに何かを伝えなければならない状況を想定し、「新しい表現を聞く活動」→「繰り返して言い、音に慣れる活動」→「記憶したり自分のものにしたりする活動」→「自分の意思で言葉を選んで発話する活動」とステップアップを図る計画を立てました。しかし、「繰り返して言い、音に慣れる活動」を丁寧に行わせておくなど、発話の前の指導の更なる工夫が必要であったと考えています。

児童の早く外国語を使ってみたいという気持ちを抑えさせつつ、また、一方で段階的に関心や意欲を高めさせながら、外国語を使いたくなる「意味ある」言語の使用場面につなぐ単元計画を作ることは難しいことです。

それぞれの学校で具体的な計画に対して実践を試み、そこでの児童の姿を見取りながら改善を加えていく必要があります。



### 実践者からのコメント

児童にとって「意味ある」言語の使用場面を工夫するなどの単元の精度を上げていく一方で、年間指導計画を練り上げていくことが大切だと感じました。各学年の目標をしっかりと持って、各単元の関連を図りながら、児童のコミュニケーション能力の素地を時間をかけながら着実に育成していく必要性を感じました。

また、自分自身の英語力をブラッシュアップして美しい発音を披露することも大切ですが、児童が積極的に英語を話せる学級づくりも重要です。

## ③ これからの方向性

外国語活動のねらいは、外国語の語彙や表現の定着を図ったり、外国語の運用力を向上させることではなく、外国語に触れたり、外国語を体験したりする機会を提供することにより、中・高等学校で花が咲き、実が結ぶための素地づくりです。児童一人一人の理解を基盤として、無理のない授業を展開することが何より大切なことです。外国語が児童にとって特別なものにならないように、複雑な言語活動を求めたり、一律に **Big Voice** を強要したりすることなどないように十分配慮し、教師自身が外国語を特別視せず、外国語活動を進めていく必要があります。

そこで、小学校外国語活動を進める上でのポイントを次に示します。

### 言語活動

#### 言語活動のプロデューサー

「英語ノート」には、約300語の語彙と基本的な日常会話の表現が登場し、それらの表現を活用することで、コミュニケーション活動が行われますが、最終的に、それらの語彙・表現を定着、習得しているかどうかの評価につながるわけではありません。小学校では、外国語を通じて、言葉の面白さや豊かさに気付いたり、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さに気付く「体験」こそが重要なキーワードとなります。この「体験」を成功させるには、児童にとって興味・関心のある活動を設定し、また、未知なる外国語への不安を取り除くことが大切です。これらを実現させるには、児童一人一人のことをよく理解している、児童にとって身近な学級担任の存在が不可欠です。その意味では、外国語活動における学級担任は、英語を教える「教師」という役割より、このような外国語の体験を総合的に企画調整する「プロデューサー」としての役割の方が重要です。

### 評価

#### 授業改善のための自己点検

適切な評価を行うことは、児童の学習状況を丁寧に把握する手だてになるだけでなく、教師の指導や指導計画の改善に生かすことにつながります。評価を行う場合、「英語ノート指導資料」に示されている評価規準例等を参考にして、評価の規準を設定しておく必要があります。評価方法としては、行動観察、発表観察、児童による自己評価・相互評価、英語ノート点検等があり、計画的、継続的に評価していくことが大切です。外国語活動における評価は、一人一人の児童の理解を確かめ、指導の工夫改善に生かすことが重要です。

### 中学校への接続

#### 小学校外国語活動と中学校外国語科の連携

小学校外国語活動と中学校外国語科では、コミュニケーション能力の向上という大きな流れは共通していますが、その目的が異なっています。小学校では、コミュニケーション活動など様々な活動を通して、体験的にコミュニケーション能力の素地を育成するのに対して、中学校では、小学校外国語活動で育成された「素地」を基盤に、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能の向上を図りながらコミュニケーション能力の基礎を育成することが求められています。両者をスムーズにつなげるには、小・中学校の担当者同士で交流を図るなどして、中学校では何をどのように扱おうとしているのかを十分理解した上で、小学校段階では何をすべきなのかを吟味し、小学校のねらいを達成することが必要です。

平成20・21年度岡山県総合教育センター共同研究  
「新学習指導要領を踏まえた新しい授業づくりに関する研究」  
研究協力委員会

研究協力委員

嶋村 尚美	備前市立日生東小学校教諭
二澤 弘和	総社市立総社小学校教諭
山本 展之	吉備中央町立吉備高原小学校教諭
谷口 智彦	瀬戸内市立美和小学校教諭
妻澤 孝則	玉野市立後閑小学校教諭
三宅千加子	岡山市立江西小学校教諭
角谷 美佳	倉敷市立中島小学校教諭
居郷 弘子	岡山市立操南小学校教諭
森 泰久	真庭市立中津井小学校教諭
羽原 敬一	赤磐市立豊田小学校教諭
坂手 英俊	津山市立高野小学校教諭
藤田 雅子	岡山市立芥子山小学校教諭
黒田 和子	岡山市立建部小学校教諭
片山 知子	吉備中央町立吉川小学校教諭

授業実践事例提供者

神田 千晶	岡山市立大元小学校教諭
宮田 宏美	岡山市立南輝小学校教諭

長尾 紀江	岡山県総合教育センター教科教育部長
中島 勝巳	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（平成20年度） （現 総社市立秦小学校教頭）
楠 博文	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（平成20年度） （現 赤磐市立山陽西小学校指導教諭）
金井 庸記	岡山県総合教育センター教育経営部指導主事
小田 成知	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
仲達 修一	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
川西 隆	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
信宮 誠	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
久山 将弘	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
前田 敦子	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
塩崎 弘之	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
長谷川陽子	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
山田 恭之	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
藤原 敬三	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（平成21年度）
西林 哲郎	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（平成21年度）

平成22年2月発行

授業実践事例集  
小学校編

編集兼発行所 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL (0866)56-9101 FAX (0866)56-9121

URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

E-MAIL [kyoikuse@pref.okayama.jp](mailto:kyoikuse@pref.okayama.jp)

Copyright © 2010 Okayama Prefectural Education Center

\*本文掲載イラストは、株式会社ジャストシステム、神奈川県立総合教育センターほかのものを使用しています。

